



臺灣現勢要覽

昭和三年版

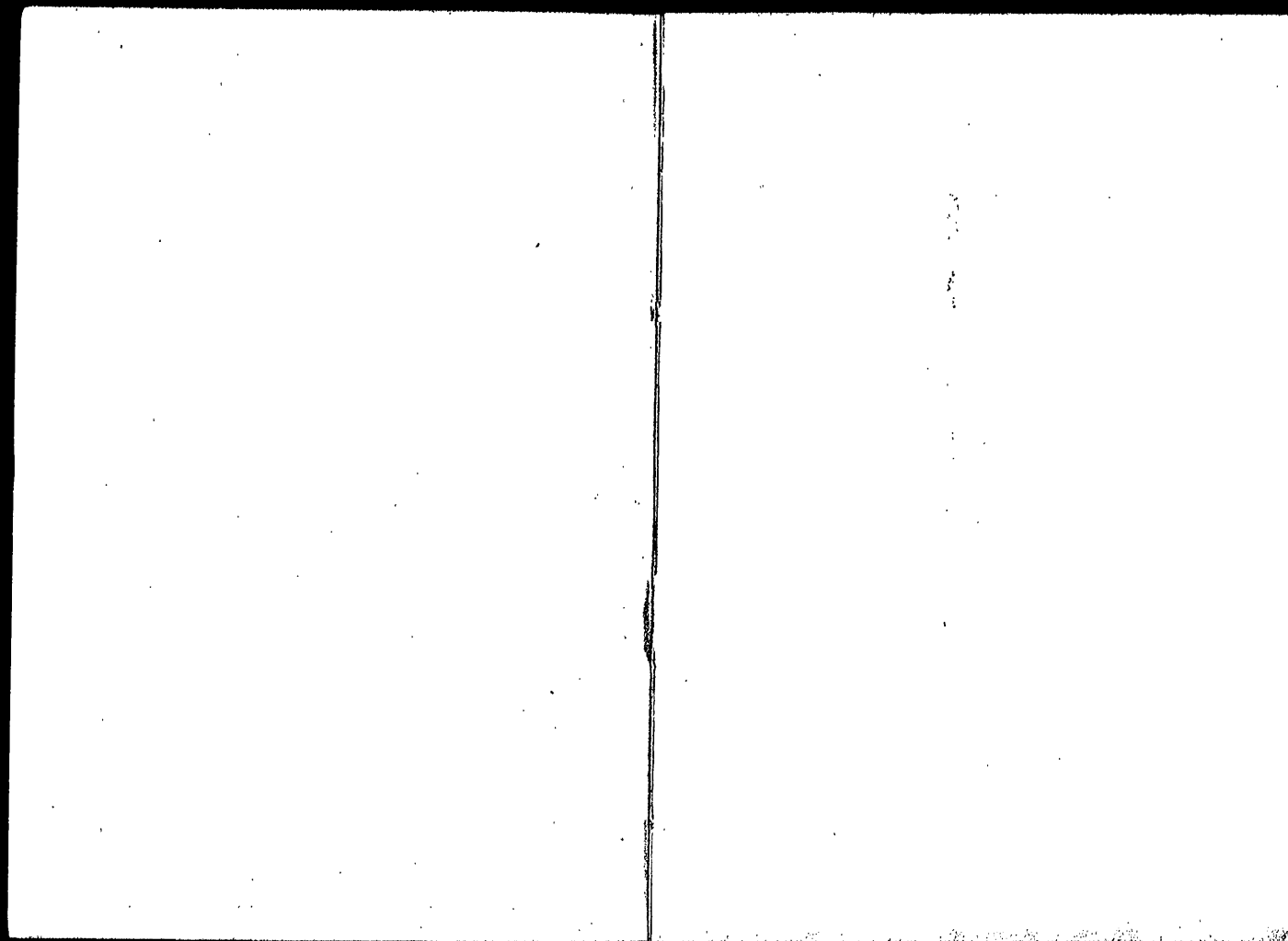
11

9.22

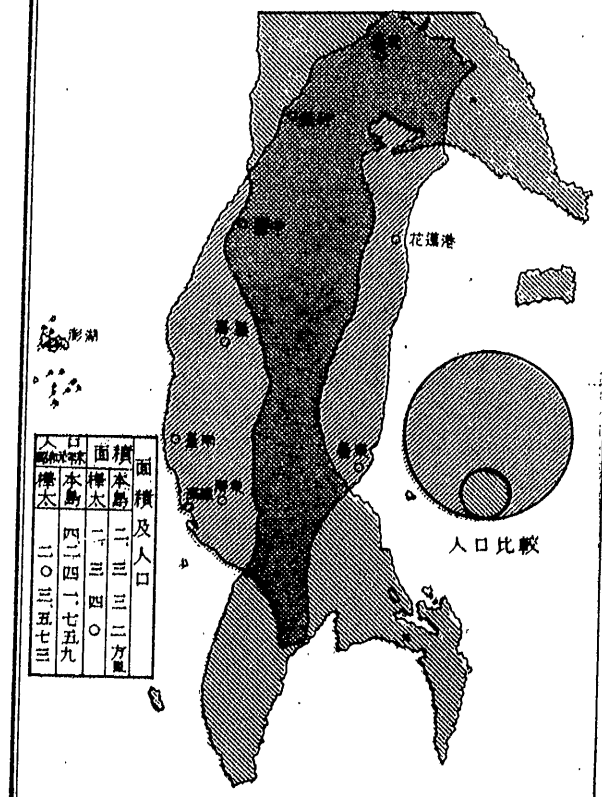
臺灣現勢要覽

352
6697
16

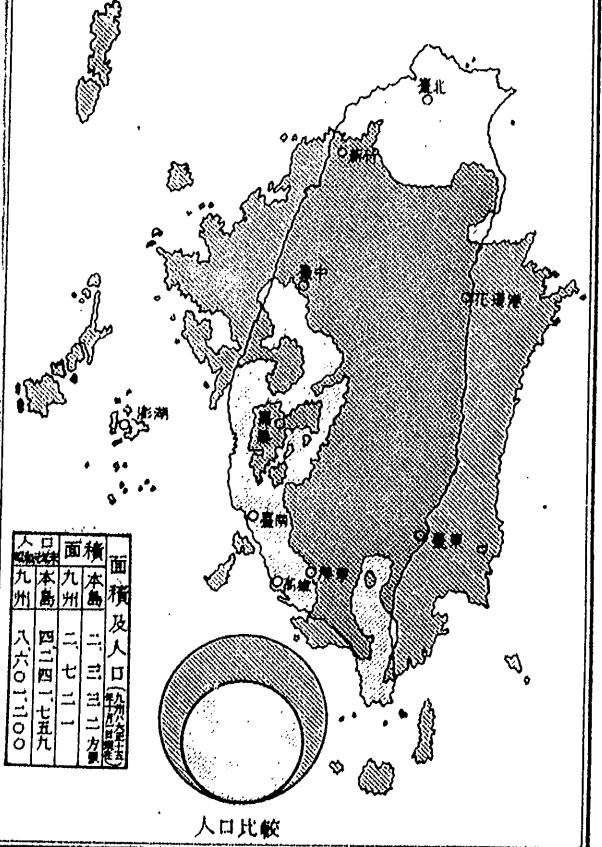
內閣文庫	
大 天 九 一 冊	和 書 號



II 臺灣及樺太面積並人口比較

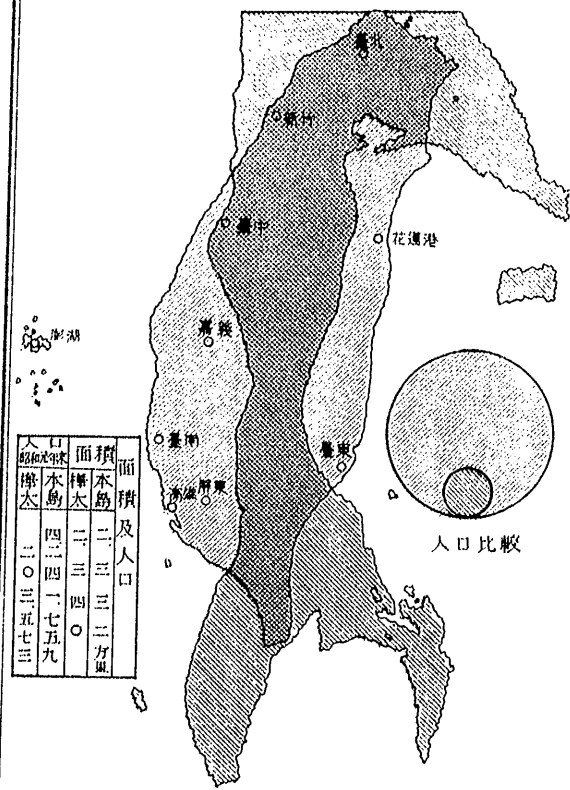


I 臺灣及九州面積並人口比較

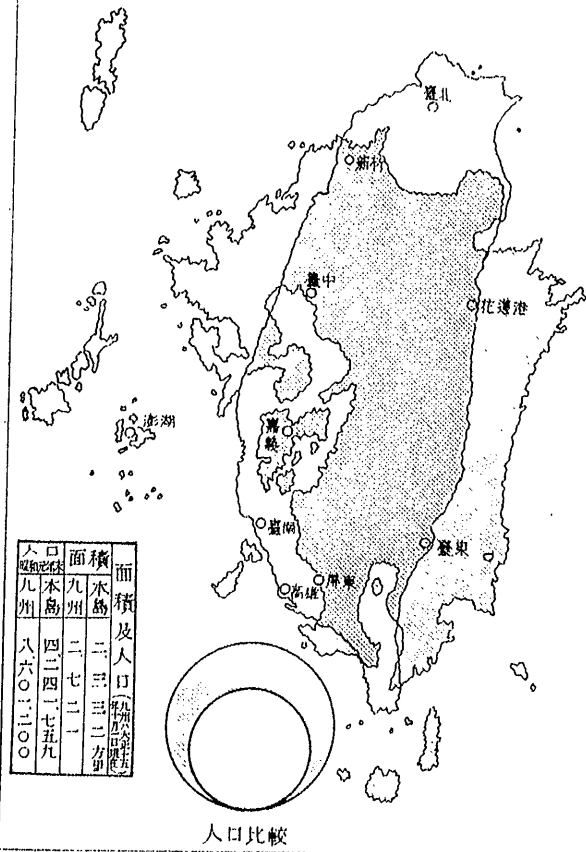


露光量違いにより重複撮影

II 臺灣及樺太面積並人口比較

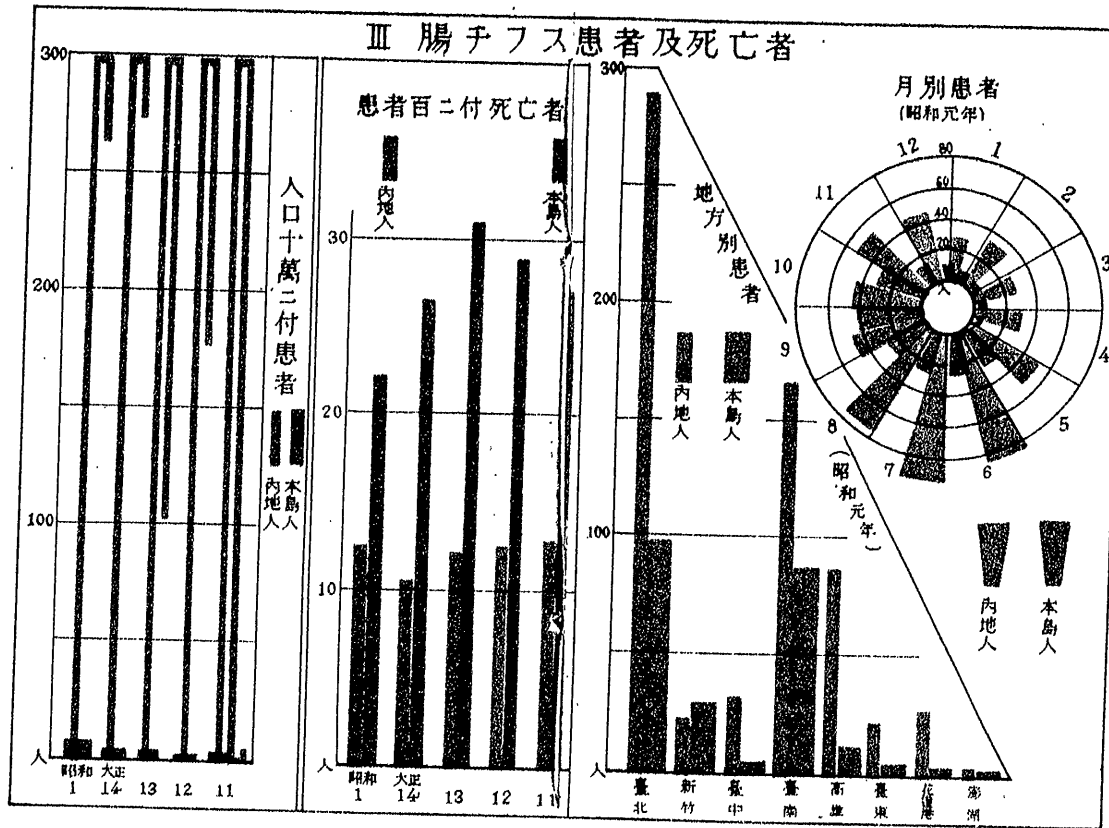


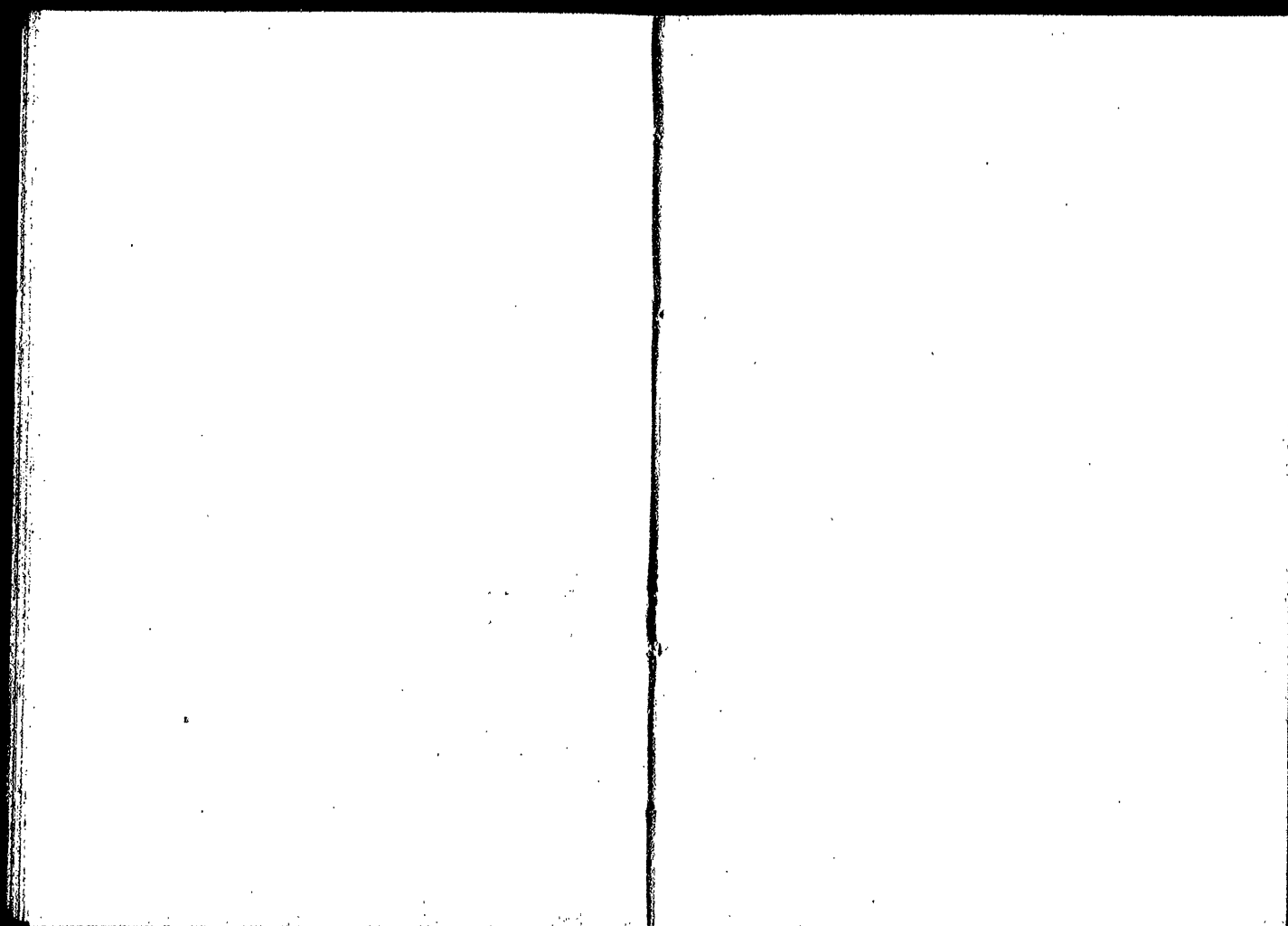
I 臺灣及九州面積並人口比較



露光量違いにより重複撮影

III 腸チフス患者及死亡者





凡例

- 一 本書は、臺灣の現勢を知るの便に資せんか爲め、主要なる事項に就て、その統計的説明を試みたるものなり。
- 二 本書は、昭和元年(大正十五年)の事實を基礎としたるも、その最近の統計あるものは、努めて之を採り、又昭和元年(大正十五年)の事實不明のもの若し特に必要認めたるものは、昭和元年(大正十五年)以前の統計をも採りたり。
- 三 本書は、主として臺灣の現勢を知るを目的とするも、特にその變遷進歩の狀態を説明するの必要ある事項に就ては、累年の統計をも擧げたり。
- 四 本書は、帝國に於ける臺灣の地位を説明するの便に供せんか爲め、その必要なる事項に就ては、内地府縣、北海道、朝鮮、樺太、關東州等との比較對照をも試みたり。

昭和三年五月

臺灣總督府

臺灣現勢要覽目次

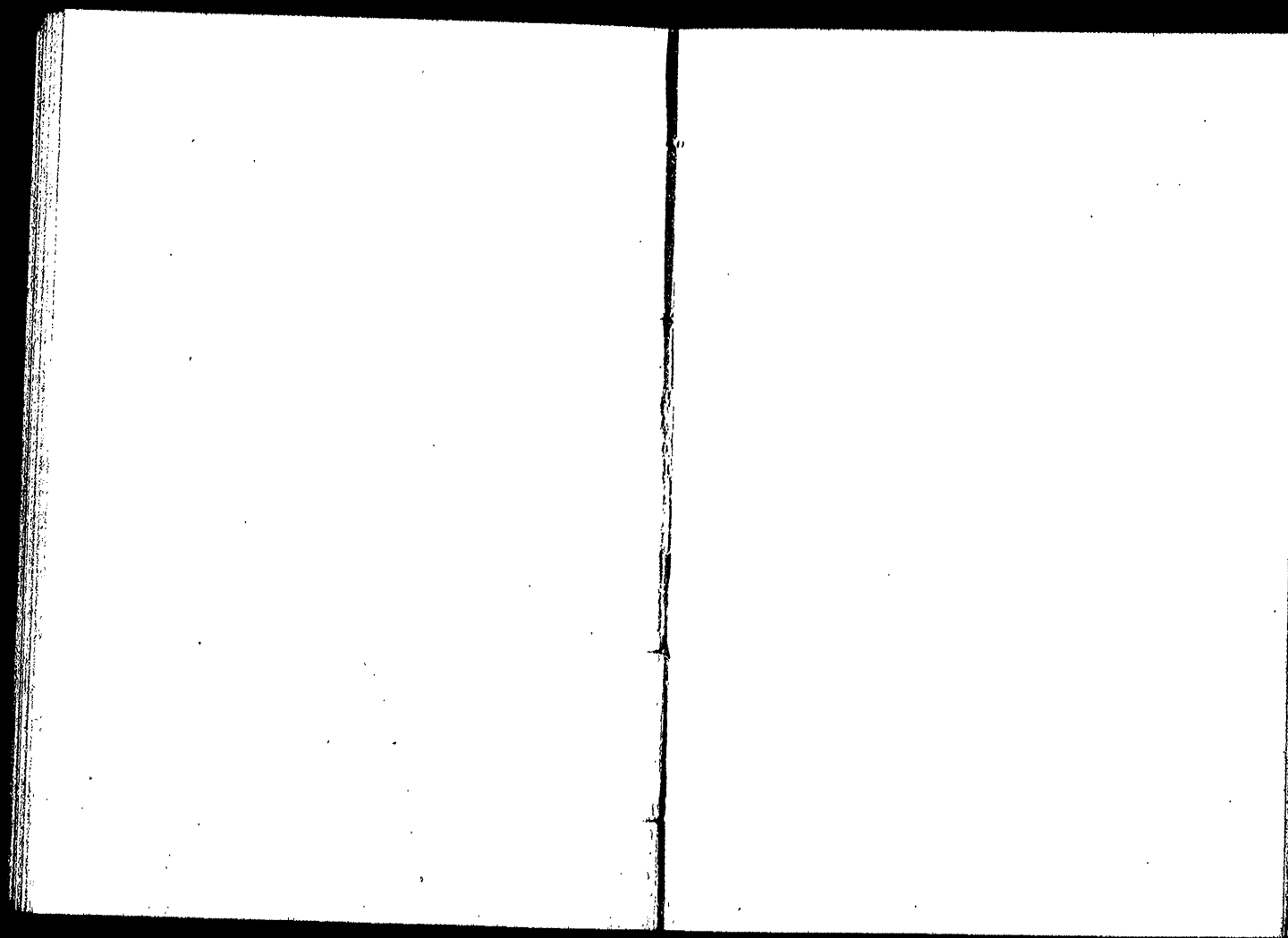
1

一	位置	一
二	面積	四
三	山嶽	一〇
四	河川	三
五	土地の利用	六
六	氣温	二〇
七	雨量	二〇
八	人口	四三
九	本籍別内地人	四三
一〇	在外臺灣人	四三
一一	在留外國人	四三
一二	臺灣語を話す内地人	四三
一三	國語を話す本島人	四三
一四	婚姻、離婚、出生及死亡	四三
一五	出生率	四三
一六	死亡率	四三
一七	人口の増加	四三

一八	蕃人	〇
一九	行政區劃	〇
二〇	州及廳の面積	〇
二一	州及廳の人口	〇
二二	主要都市	〇
二三	農業戶數	〇
二四	耕地面積	〇
二五	水利	〇
二六	農産	〇
二七	畜産	〇
二八	林産	〇
二九	礦産	〇
三〇	水産	〇
三一	工業	〇
三二	糖業	〇
三三	貿易	〇
三四	對外國貿易	〇
三五	支那、香港及南洋貿易	〇
三六	重要品別外國貿易	〇

三七	重要品別内地貿易	〇
三八	港別貿易	〇
三九	財政	〇
四〇	專賣	〇
四一	銀行	〇
四二	物價	〇
四三	教育	〇
四四	衛生機關	〇
四五	水道	〇
四六	ペストミマリア	〇
四七	阿片吸食特許者	〇
四八	鐵道	〇
四九	郵便、電信、電話	〇
五〇	警察官署及職員	〇
五一	最近十五年間の進歩	〇

III II I
 臺灣及九州面積或人口比較
 臺灣及樺太面積或人口比較
 腸チフス患者及死亡者



臺灣現勢要覽

臺灣は帝國の最南端に位し、臺灣本島、澎湖列島及其他の附屬島嶼より成る。今之を緯度によつて、東經百十九度十八分より百二十二度六分、北緯二十一度四十五分より二十五度三十八分に在る。北は海上六百二十四哩にして九州の南端鹿兒島に達し、西は臺灣海峡を隔て、近く支那大陸に相接し、東は太平洋を隔て、遠く米大陸に相對し、南はバシムン海峡を隔て、近く比律賓群島に相隣す。

一 經度及緯度

臺灣本島		澎湖島	
極東	臺北州基隆市棉花嶼東端	極東	臺北州基隆市棉花嶼東端
極西	臺南州北港郡口湖庄新港西端	極西	臺南州北港郡口湖庄新港西端
極南	高雄州恒春郡七星岩南端	極南	高雄州恒春郡七星岩南端
極北	臺北州基隆市彭佳嶼北端	極北	臺北州基隆市彭佳嶼北端
極東	澎湖廳湖西庄查母嶼東端	極東	澎湖廳湖西庄查母嶼東端
極西	臺安庄花嶼西端	極西	臺安庄花嶼西端
極南	臺安庄大嶼南端	極南	臺安庄大嶼南端
極北	白沙庄目斗嶼北端	極北	白沙庄目斗嶼北端
	三三〇		三三〇
	三〇三		三〇三
	三五六		三五六
	二九六		二九六
	三三〇		三三〇
	三三〇		三三〇

新
嘉
坡

二
八
四

盤四海麻香上汕厦福大釜橫神門長鹿那

尼 兒 距

谷 賈 防 刺 港 海 頭 門 州 連 山 濱 月 司 崎 島 新

(香港經由)
(門司經由)
(鹿兒島沖通過)

離 基隆を基點とする直航距離

一八四 一〇〇 九七 九三 八八 八三 七九 七五 七〇 六五 六一 五七 五三 四九 四四 四〇 三五 三〇 二五 二〇 一五 一〇

二面積

露海の面積は二千三百三十二方里にして、帝國の總面積四萬三千六百七十七方里中その五分三厘を占め、九州よりは稍や小さく、樺太を伯仲し、朝鮮に比すれば約その六分の一に當る。尙ほ之を列國の面積に比すれば、瑞西(二千六百七十八方里)とサルバドル(二千二百十三方里)との中間に位す。

總數	面積	百分比
露海	2332	100.0
朝鮮	1230	52.7
樺太	1210	51.9
北海道	575	24.7
内地府縣	1906	81.8

本表の外租借地として關東州(州内、鐵道附屬地)の面積二百四十一方里及南洋委任統治區域の面積百三十九方里あり。
本表は帝國統計年鑑に依る。

三山嶽

臺灣は帝國第一の高山新高山を始め、海拔一萬尺以上のもの四十八座、九千尺級のもの十七座、八千尺級のもの二十四座、七千尺級のもの二十六座を有す。故に七千尺以上の高山の總数は百十五座の多きに達し、所謂高山國の名に背かすして熱帯、暖帯、温帯、寒帯等各種の林相を有す。

帝國の全領土を通して一萬尺以上の高山は總數六十一座を算し、就中臺灣四十八座を占め、内地は僅かに十三座を有し、北海道、朝鮮、樺太は共に之を缺く。即ち新高山は一萬三千三十五尺を以て第一位を占め、富士山は漸く第六位に在り、内地第二の高山北嶽は僅かに四十一位を占むるに過ぎず。

新	次	秀	マ	南	富	關
新高山	次高嶽	秀姑巒山	マボラス山	南湖大山	富士山(内地)	關中央尖山
15100	13711	13500	13300	13200	12926	11100
(3250)	(3250)	(3250)	(3250)	(3250)	(3250)	(3250)
順位	一	二	三	四	五	六
						八

大水窟山	33026	(3250)	九
芥菜主山北峰	11268	(3250)	10
東那大	11268	(3250)	11
大那大	11268	(3250)	12
大那大	11268	(3250)	13
大那大	11268	(3250)	14
大那大	11268	(3250)	15
大那大	11268	(3250)	16
大那大	11268	(3250)	17
大那大	11268	(3250)	18
大那大	11268	(3250)	19
大那大	11268	(3250)	20
大那大	11268	(3250)	21
大那大	11268	(3250)	22
大那大	11268	(3250)	23
大那大	11268	(3250)	24
大那大	11268	(3250)	25
大那大	11268	(3250)	26
大那大	11268	(3250)	27
大那大	11268	(3250)	28
大那大	11268	(3250)	29
大那大	11268	(3250)	30

能高山南峰	11,000	(2,123)
卑南山	10,304	(2,105)
干卓萬山	10,205	(2,100)
カシバサン山	10,198	(2,100)
郡大	10,188	(2,100)
々ロコ大山	10,188	(2,100)
卓社大	10,188	(2,100)
小關	10,188	(2,100)
能高	10,188	(2,100)
屏風	10,188	(2,100)
大武	10,188	(2,100)
尖山	10,188	(2,100)
北嶽(内地)	10,188	(2,100)
北嶽(内地)	10,188	(2,100)
間嶽(内地)	10,188	(2,100)
館嶽(内地)	10,188	(2,100)
槍嶽(内地)	10,188	(2,100)
ハイノトサン山	10,188	(2,100)
イビサン山	10,188	(2,100)

白石山	10,788	(2,123)
ウツノミン山	10,788	(2,123)
赤石山(内地)	10,788	(2,110)
奥鷹高岳(内地)	10,788	(2,100)
東俣山(内地)	10,788	(2,100)
秘高岳(内地)	10,788	(2,100)
安東郡山	10,788	(2,100)
巒大	10,788	(2,100)
御嶽山(内地)	10,788	(2,100)
關門山	10,788	(2,100)
大石公山	10,788	(2,100)
白根山(内地)	10,788	(2,100)
小嶽	10,788	(2,100)
仙丈嶽(内地)	10,788	(2,100)
南嶽(内地)	10,788	(2,100)

内地の分は第四十五回國勢一表に依る。

四河川

臺灣は幅員狭く、その最も廣き部分と雖、僅かに四十里内外に過ぎず、且つ高峰南北に貫通するを以て、河川の發源孰れも近く、舟楫の便は多く望むべからず。流域二十里以上のもの僅かに十を算し、最長の河川たる濁水溪にして漸く四十二里に過ぎず。

濁水溪	四十里	(一六四九)
下淡水溪	三十七里	(一五五九)
曾文溪	三十七里	(一五五九)
大甲溪	三十一里	(一三〇〇)
烏水溪	二十六里	(一〇七八)
八獎溪	二十六里	(一〇七八)
秀姑巒溪	三六里	(一三三〇)
卑南溪	三六里	(一三三〇)
大安溪	三六里	(一三三〇)

本表は流域二十里以上のもののみを掲ぐ。

五 土地の利用

臺灣の總面積は三百六十二萬七千町歩(三百七十萬八千甲)にして内、耕地七十九萬二千町歩(八十一萬四千甲)、林野二百五十九萬九千町歩(二百六十五萬八千甲)、其の他二十三萬一千町歩(二十三萬六千甲)なり。

今之を内地其の他と比較するに、總面積に對する耕地の割合最も大なるは、關東州の五割三分八厘にして、臺灣は二割二分を以て之に亞き、樺太の六厘最も小なり。林野に於ては、樺太の八割九分四厘最も大にして、臺灣は七割一分六厘を以て第二位を占め、關東州の二割五分三厘最も小なり。耕地及林野以外の土地の割合最も大なるは内地府縣の二割四分八厘にして、臺灣の六分四厘最も小なり。

實數	耕地			林野			其他		
	耕地	林野	其他	耕地	林野	其他	耕地	林野	其他
產	2,662,000	2,959,000	3,216	3,000	7,600	600			
朝鮮	1,000,000	1,732,000	2,316	3,000	7,600	600			
關東州	3,000,000	2,316	3,000	3,000	7,600	600			
樺太	3,000,000	2,316	3,000	3,000	7,600	600			
北海道	3,000,000	2,316	3,000	3,000	7,600	600			
内地府縣	2,662,000	2,959,000	3,216	3,000	7,600	600			
耕地は昭和元年末現在なり。									

百分比例

林野の臺灣、樺太、關東州(州内、鐵道附屬地)は昭和元年末現在、朝鮮は昭和二年五月末現在、内地及北海道は大正十三年末現在なり。

朝鮮、樺太、關東州は同統計表に依る。

北海道、内地府縣は農林省統計表に依る。

六氣 温

薩摩は北回帰線に跨り、半は熱帯圏に位するが故に、内地に比すれば夏季長く、冬季短きも、その最高気温は敢て内地より高しと謂ふにあらす。而も冬季は頗る暖かにして、高山ならざれば降雪なく、北部の平地に於ては偶々霜を見る事なしとせざるも極て稀なり。今内地其の他と比較するに、累年平均気温は我薩摩最も高きも、最高極数の気温に至りては内地其の他の部分に却つて高き處あり。即ち薩東の三十九度(華氏百二度二分)は新潟の三十九度一分(華氏百二度四分)より一分低く、又薩南の三十六度九分(華氏九十八度四分)は京城の三十七度五分(華氏九十九度五分)より一分低く、薩中の三十七度二分(華氏九十九度二分)は大坂の三十七度六分(華氏九十九度七分)より一分低く、薩中の三十七度二分(華氏九十九度二分)は釜山、旭川(同し)及澎湖の三十三度五分(華氏九十二度三分)は大泊、函館を除けば他の何れの地方よりも低し。

地名	昭和元年平均			最高の極		最低の極	
	平均	年	月	年	月	年	月
薩摩	攝氏 華氏	攝氏 華氏	攝氏 華氏	攝氏 華氏	攝氏 華氏	攝氏 華氏	攝氏 華氏
恒春	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
東春	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
南	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三

地名	昭和元年平均			最高の極		最低の極	
	平均	年	月	年	月	年	月
澎湖	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
中	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
北	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
隆	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
朝	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
釜山	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
京城	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
大津	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
關東	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
旅順	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
北	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
函館	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
札幌	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
旭川	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
内地府	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
那	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
長崎	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三

大	阪	五二
東	京	三三
新	潟	三三
青	森	九三
		六二
		六五
		六八
		九七
		九八
		一一〇
		一一一
		一一三
		一一五
		一一七
		一二〇
		一二二
		一二四
		一二六

○は零點下を示す。

七 雨 量

臺灣は南北に依り其の降雨期を異にす。即ち北部は十月より翌年三月迄の冬季六箇月、南部は五月より九月に至る夏期五箇月を雨期とす。北部は基隆附近最も降雨量多く、基隆に近き暖暖は一年五千耗を以て第一位を占め、且つ世界有数の降雨地として知らる。南部に於ては潮州郡蕃地クルスの五千三百耗最多量を示し、降雨量の最も少きは澎湖島にして一年の總量九百六十耗なり。更に之を内地其の他と比較するに、臺灣は全島を通して一般に他の地方よりも降雨量多し。

恒	蕃地	一、八〇五
春	東	一、八〇五
湖	南	一、八〇五
山	東	一、八〇五
阿	里	一、八〇五
產	里	一、八〇五

昭和元年	一、八〇五
總平均	一、八〇五
昭和元年	一、八〇五
最多日數	一、八〇五
昭和元年	一、八〇五
最多日數	一、八〇五
昭和元年	一、八〇五
最多日數	一、八〇五
昭和元年	一、八〇五
最多日數	一、八〇五
昭和元年	一、八〇五
最多日數	一、八〇五

東 新 青

京 湯 森

二七
一〇九
一〇八

一〇八
一〇九

二七
一〇九

九一七
九一七
七一三

朝 暖 基 臺
 大 京 城 大 關 北
 榑 大 族 旭 札 函 內
 海 東 府

北 隆 暖 鮮 山 城 津 泊 州 順 道 館 縣 崎 阪

一〇八
一〇九
一〇八
一〇九
一〇八
一〇九
一〇八
一〇九

一〇八
一〇九
一〇八
一〇九
一〇八
一〇九
一〇八
一〇九

二七
一〇九
二七
一〇九
二七
一〇九
二七
一〇九

九一七
九一七
七一三
九一七
九一七
七一三
九一七
九一七
七一三

八人口

臺灣の總人口は昭和元年末現在四百二十四萬人にして内、内地人十九萬五千人、本島人三百九十二萬三千人(平地居住の蕃人を含む)、蕃人八萬六千人(蕃地居住者のみ)、外國人三萬五千人なり。

昭和元年末現在帝國の總人口は八千四百萬人を算し、臺灣は四百二十四萬人(蕃地居住の蕃人を含む)にして、實に其の五分を占む。

更に臺灣の人口を列國のそれに比すれば、勃爾牙利(五、四八三、〇〇〇)と瑞西(三、九五九、〇〇〇)との中間に位す。

一 種族別人口 (昭和元年末現在)

種族	總數	男	女	百分比
内地人	四四二七五	二六六六五	一七六一〇	一〇〇
本島人	一、五三三、七五五	一、〇八一、四三三	五二〇、三二二	四一六
蕃人	三〇〇、七九七	一、九〇、〇四五	一〇〇、七五二	六三六
外國人	六、七三三	三、五八八	三、一四五	三〇
總計	二、〇〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	六五

本島人中には平地の蕃社に居住する蕃人五萬八千八百九十四人を合算せり。故に本表の蕃人には蕃地の蕃社に居住する者のみを掲せり。

二 内地其の他との人口比較 (昭和元年末現在)

地域	實數	百分比	一方里に付
總計	八、四〇〇、〇〇〇	一〇〇	一、九二五
朝鮮	四、四二七、七五五	五二	一、八二五(平均面積)
臺灣	二、〇〇〇、〇〇〇	二四	一、三三三(平均面積)
内地府縣	一、九七二、二〇〇	二三	一、三三三
北海道	三、五七〇、〇〇〇	四二	三、五七〇
内地府縣	三、五七〇、〇〇〇	四二	三、五七〇

本表の外租借地としての關東州(州内、鐵道附屬地)は人口百五萬八千八百五十一人を有し、一方里に付人口四千三百九十四人及南洋委任統治區域は人口五萬六千二百四十六人を有し、一方里に付人口四百五十五人を算す。

朝鮮、樺太、關東州及南洋委任統治區域は同種統計書に依る。

北海道、内地府縣は大正十五年十月一日現在にして帝國統計年鑑に依る。

九 本籍別内地人

臺灣在住内地人の總數は大正九年十月一日施行の國勢調査の結果に依れば、十六萬四千人にして内、熊本縣の一萬六千三百五十三人第一位を占め鹿兒島縣は一萬六千二百七十二人を以て之に亞き、福岡縣は遙かに下りて八千八百九十八人を以て第三位に在り、廣島、山口の兩縣順次に亞き其の最も少きは青森縣の二百八十二人なり。

府縣	人口	百分比	順位
熊本縣	一六,三五三	一〇一	一
鹿兒島縣	一六,二七二	九九	二
福岡縣	八,八八六	五四	三
廣島縣	八,四三三	五二	四
山形縣	七,四七三	四五	五
佐賀縣	六,七六〇	四二	六
東海縣	六,三〇七	三九	七
長門縣	六,〇〇八	三七	八
宮城縣	四,五七三	二八	九
大分縣	四,五七三	二八	一〇

府縣	人口	百分比	順位
新愛媛縣	四,〇三三	二六	一一
愛媛縣	三,八三三	二五	一二
高松縣	三,七三三	二四	一三
宮崎縣	三,六三三	二三	一四
高宮縣	三,五三三	二二	一五
高知縣	三,四三三	二一	一六
山形縣	三,三三三	二〇	一七
知事縣	三,二三三	一九	一八
阜前縣	三,一三三	一八	一九
沖繩縣	三,〇三三	一七	二〇
石川縣	二,九三三	一六	二一
香島縣	二,八三三	一五	二二
福島縣	二,七三三	一四	二三
靜岡縣	二,六三三	一三	二四
和歌山縣	二,五三三	一三	二五
茨城縣	二,四三三	一五	二六
徳島縣	二,三三三	一四	二七
三島縣	二,二三三	一三	二八

長 關 千 神 山 滋 島 山 富 山 群 山 嶺 奈 北 岩 秋 青
 野 井 業 川 賀 形 取 山 梨 玉 道 良 木 手 田 森

内地人總數十六萬四千二百六十六人中、内地に本籍を有せざる者二十六人、本籍不詳九人を除く。

一八七 一七六 一七五 一七四 一七三 一七二 一七一 一七〇 一六九 一六八 一六七 一六六 一六五 一六四 一六三 一六二 一六一 一六〇 一五九 一五八 一五七 一五六 一五五 一五四 一五三 一五二 一五一 一五〇 一四九 一四八 一四七 一四六 一四五 一四四 一四三 一四二 一四一 一四〇 一三九 一三八 一三七 一三六 一三五 一三四 一三三 一三二 一三一 一三〇 一二九 一二八 一二七 一二六 一二五 一二四 一二三 一二二 一二一 一二〇 一一九 一一八 一一七 一一六 一一五 一一四 一一三 一一二 一一一 一一〇 一〇九 一〇八 一〇七 一〇六 一〇五 一〇四 一〇三 一〇二 一〇一 一〇〇 九九 九八 九七 九六 九五 九四 九三 九二 九一 九〇 八九 八八 八七 八六 八五 八四 八三 八二 八一 八〇 七九 七八 七七 七六 七五 七四 七三 七二 七一 七〇 六九 六八 六七 六六 六五 六四 六三 六二 六一 六〇 五九 五八 五七 五六 五五 五四 五三 五二 五一 五〇 四九 四八 四七 四六 四五 四四 四三 四二 四一 四〇 三九 三八 三七 三六 三五 三四 三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一 〇〇

三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一 〇〇

三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一 〇〇

本籍

在外臺灣人

在外臺灣人の總數は、大正九年十月一日施行の國勢調査の結果に依れば、四千七百八十五人にしてその大部分は支那に在留す。即ち支那に在留臺灣人の總數は四千二百三十六人に於て、就中その三千八十五人は對岸廈門に居住し、福州は七百六十六人、汕頭は二百三十六人を算す。支那以外の地方に在りては、爪哇の二百十八人第一位を占め、海峽植民地の百五人に次ぐ。

總數		男		女	
關東	四七五	四〇三	七二	一〇二	一五
支那	四七五	四〇三	七二	一〇二	一五
廈門	三三六	二七五	六二	九一	一五
福州	二二〇	一七五	四五	四五	一五
汕頭	二二六	一七五	五二	五三	一五
其他	三六	三〇	六	六	一五

海峽植民地		其他	
新嘉坡	一〇二	九	一五
檳榔嶼	七五	八	一五
香港	七五	八	一五
暹羅	七五	八	一五
比連	七五	八	一五
濠洲	七五	八	一五
律	七五	八	一五
利洲	七五	八	一五

一一 在留外國人

臺灣在留外國人の總數は大正九年十月一日施行の國勢調査の結果に依れば、二萬三千六百六十四人なり、今之が國籍を辨ぬるに、支那人はその大部分を占め二萬三千四百六十七人を算し、英吉利人の八十九人、北米合衆國人の四十二人順次に亞く。

三六五
三六五

支那	支那	三六五
英吉利	英吉利	八十九
北米合衆國	北米合衆國	四十二
西班牙	西班牙	三
印度	印度	一
爪哇	爪哇	一
暹羅	暹羅	一
緬甸	緬甸	一
荷蘭	荷蘭	一
佛蘭西	佛蘭西	一
其他	其他	一
總數	總數	二六四六

葡	葡	一
丁	丁	一
諾	諾	一
加	加	一
墨	墨	一
伯	伯	一
波	波	一
濠洲	濠洲	一
總數	總數	九

本表の外、外國に國籍を有せざる者七百九十九人、國籍不詳三人あり。
本表には關帝當日基隆碇泊の外國船乗組員をも含むを以て國籍數比較的多し。

二二 臺灣語を話す内地人

内地人にして臺灣語を話すもの数は、明治三十八年の六千八百二十九人より、大正四年の一萬六千五百九十一人に増加し、更に大正九年には一萬七千二百七十三人に増加したるも、その内地人千に對する割合は、大正四年の百二十二・五分より、大正九年の百五十二分に減退したり。

年	總數		平均
	男	女	
明治三十八年	六八元	六〇〇	一〇〇
大正四年	一六九一	一三〇〇	一三二
同 九年	一七二五	一四〇六	一三五

男女別内地人千に付

年	平均	
	男	女
明治三十八年	一〇〇	一〇〇
大正四年	一三二	一〇八
同 九年	一三五	一三九

本表は第一回及第二回戸口調査並に第一回國勢調査の結果にして何れも十月一日現在なり。

二三 國語を解する本島人

本島人にして國語を解するもの数は、明治三十八年の一萬一千二百七十人より、大正四年の五萬四千三百三十七人に増加し、更に大正九年には九萬九千六十五人に増加したるも、尙ほ本島人千に對し僅かに二十八人六分を算するに過ぎず。

年	總數		平均
	男	女	
明治三十八年	一、一三〇	一〇、一〇一	一〇〇
大正四年	五、三三七	五、二一四	一三三
同 九年	九、〇〇五	八、八七〇	一六六

男女別本島人千に付

年	平均	
	男	女
明治三十八年	一〇〇	一〇〇
大正四年	一三三	一〇八
同 九年	一六六	一六六

本表は第一回及第二回戸口調査並に第一回國勢調査の結果にして何れも十月一日現在なり。

一四 婚姻、離婚、出生及死亡

臺灣に於ける最近十五年間の婚姻、離婚、出生及死亡を觀るに、人口手に付婚姻は大正元年の十一件三分より大正十四年には九件三分に減少せしむ、昭和元年には大正元年と同等に増加せり。死亡は年に依り非常の相違あり、大正七年の如き三十八人八分の多きに達したるも、昭和元年には二十二人六分に減退したり。従つて出生の死亡超過数は年により甚だしき懸隔あり、大正七年の如き僅かに二萬人に過ぎざりしか、昭和元年には八萬九千人に達したり。

年	婚姻	離婚	出生(生産)	死亡	自然増減
大正元年	五七九	五〇三	一四〇六八	一四、〇七〇	五、〇〇〇
同二年	五、七〇七	五、二〇〇	一四、一七九	一四、〇七〇	五、〇〇〇
同三年	五、七〇七	五、二〇〇	一四、一七九	一四、〇七〇	五、〇〇〇
同四年	五、七〇七	五、二〇〇	一四、一七九	一四、〇七〇	五、〇〇〇
同五年	五、七〇七	五、二〇〇	一四、一七九	一四、〇七〇	五、〇〇〇
同六年	五、七〇七	五、二〇〇	一四、一七九	一四、〇七〇	五、〇〇〇
同七年	五、七〇七	五、二〇〇	一四、一七九	一四、〇七〇	五、〇〇〇
同八年	五、七〇七	五、二〇〇	一四、一七九	一四、〇七〇	五、〇〇〇

年	婚姻	離婚	出生(生産)	死亡	自然増減
同九年	五、七〇七	五、二〇〇	一四、一七九	一四、〇七〇	五、〇〇〇
同十年	五、七〇七	五、二〇〇	一四、一七九	一四、〇七〇	五、〇〇〇
同十一年	五、七〇七	五、二〇〇	一四、一七九	一四、〇七〇	五、〇〇〇
同十二年	五、七〇七	五、二〇〇	一四、一七九	一四、〇七〇	五、〇〇〇
同十三年	五、七〇七	五、二〇〇	一四、一七九	一四、〇七〇	五、〇〇〇
同十四年	五、七〇七	五、二〇〇	一四、一七九	一四、〇七〇	五、〇〇〇
昭和元年	五、七〇七	五、二〇〇	一四、一七九	一四、〇七〇	五、〇〇〇

一五 出生率

臺灣の出生率は之を最近十五年間に就て観るに、年に依りて増減ありと雖概して増加の趨勢にあり、昭和元年は人口千に付四十四人一分を以て最高度を示す。更に之を内地其の他と比較するに、臺灣は其の割合最も高くして、大正九年迄は北海道と稍や一致し、内地府縣は我臺灣に於ける内地人のみの出生率と相似たる所あり。又列國中出生率の最も高きは智利の四十人(大正十四年)なるが故に、我臺灣の出生率は世界に於て最も高き部類に屬す。

一 出生率(人口千に付)

大正	正元	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年
44.2	43.2	42.0	41.0	40.0	39.0	38.0	37.0	36.0
平均	44.2	43.2	42.0	41.0	40.0	39.0	38.0	37.0
内地人	40.8	39.7	38.7	37.7	36.7	35.7	34.7	33.7
本島人	45.5	44.5	43.5	42.5	41.5	40.5	39.5	38.5
外國人	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8

二 内地其の他との出生率累年比較 (人口千に付)

大正元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年
臺灣	44.2	43.2	42.0	41.0	40.0	39.0	38.0
朝鮮	39.9	38.7	37.5	36.3	35.1	33.9	32.7
樺太	36.0	35.3	34.5	33.7	32.9	32.1	31.3
關東州	43.6	42.3	41.0	39.7	38.4	37.1	35.8
北海道	42.5	41.9	41.3	40.7	40.1	39.5	38.9
内地府縣	39.9	39.1	38.3	37.5	36.7	35.9	35.1
昭和大	41.9	41.0	40.1	39.2	38.3	37.4	36.5

同九年	四〇二	三六六	三三二	三〇三	二七五	二四七
同十年	四〇三	三六七	三三三	三〇四	二七六	二四八
同十一年	四〇四	三六八	三三四	三〇五	二七七	二四九
同十二年	四〇五	三六九	三三五	三〇六	二七八	二五〇
同十三年	四〇六	三七〇	三三六	三〇七	二七九	二五一
同十四年	四〇七	三七一	三三七	三〇八	二八〇	二五二
昭和元年	四〇八	三七二	三三八	三〇九	二八一	二五三

朝鮮、樺太、關東州(州内、鐵道附屬地、領事館)は同統計帯に依り算出す。
北海道、内地府縣は帝國統計年鑑に依り算出す。

一六 死亡率

臺灣の死亡率は最近十五年間に就て觀るに、是れ亦高低常ならずと雖、大正十二年には著しく低下し、人口千に付二十一人六分を以て最低の記録を示せり。内地人の死亡率は之を本島人に比すれば甚だ低く、昭和元年には本島人二十三人一分なるに對し、内地人は僅かに十二人六分を示せり。
更に之を内地其他と比較するに、大體に於て死亡率の最も低きは關東州にして、北海道之に亞き、朝鮮は内地府縣と稍や一致し、最近は我臺灣最も高し。又列國中死亡率の最も高きは、智利にして大正十四年には二十七人八分を示せり。

一 死亡率(人口千に付)

大正元年	平均	内地人	本島人	外國人
同二年	三五五	二五八	二二八	二五〇
同三年	三五二	二五五	二二五	二四七
同四年	三五三	二五六	二二六	二四八
同五年	三五四	二五七	二二七	二四九
同六年	三五五	二五八	二二八	二五〇
同七年	三五六	二五九	二二九	二五一
同八年	三五七	二六〇	二三〇	二五二
同九年	三五八	二六一	二三一	二五三
同十年	三五九	二六二	二三二	二五四
同十一年	三六〇	二六三	二三三	二五五
同十二年	三六一	二六四	二三四	二五六
同十三年	三六二	二六五	二三五	二五七
同十四年	三六三	二六六	二三六	二五八
同十五年	三六四	二六七	二三七	二五九
昭和元年	三六五	二六八	二三八	二六〇

昭和九年	同	同	同	同	同
和十	十	十	十	十	九
元四	三	二	一	年	年
年	年	年	年	年	年
三六	二六	二二	二七	二二	一九
五八	四九	三二	二七	一九	三六
五八	四九	三二	二七	一九	三六
五八	四九	三二	二七	一九	三六

大正元年	同	同	同	同	同	同
二	三	四	五	六	七	八
年	年	年	年	年	年	年
二六	二二	一九	二一	一九	一九	一九
二六	二二	一九	二一	一九	一九	一九
二六	二二	一九	二一	一九	一九	一九
二六	二二	一九	二一	一九	一九	一九
二六	二二	一九	二一	一九	一九	一九

二 内地其の他との死亡率累年比較(人口千に付)

臺灣 朝鮮 樺太 關東州 北海道 内地府縣

昭和九年 同 同 同 同 同 同
 同十一年 同 同 同 同 同 同
 同十二年 同 同 同 同 同 同
 同十三年 同 同 同 同 同 同
 同十四年 同 同 同 同 同 同
 昭和元年 三六 二二 一九 二一 一九 一九
 朝鮮、樺太、關東州(州内、鐵道附屬地、領事館)は同統統計帯に依り算出す。
 北海道、内地府縣は帝國統計年鑑に依り算出す。

二七 人口の増加

臺灣の人口は、明治三十八年十月一日施行の第一回戸口調査の結果に依れば、三百萬なりしものか、大正元年末には三百三十五萬に増加し、更に昭和元年末には四百十五萬に達し過去十五年間に二割四分の増加を示せり。
更に人口増加の趨勢を内地其他と比較するに、増加の割合最も大なるは樺太にして、關東州之に亞き、北海道は第三位を占め、大正八年迄は臺灣と内地とは殆んど其の歩調を一にす。

一 最近十五箇年間の人口(各年末現在)

年	總數	男	女	指數
大正元年	3,359,952	1,742,464	1,617,488	100
二年	3,418,260	1,794,812	1,623,448	101
三年	3,486,829	1,848,852	1,637,977	102
四年	3,545,332	1,899,942	1,645,390	103
五年	3,603,110	1,949,125	1,654,985	104
六年	3,660,020	1,996,122	1,664,898	105
七年	3,716,952	2,041,174	1,675,778	106
八年	3,773,852	2,084,810	1,689,042	107
九年	3,830,750	2,127,510	1,702,240	108

昭和元年 3,887,642 1,173,916 2,713,726 109
 同 十二年 3,944,532 1,216,812 2,727,720 110
 同 十三年 3,999,422 1,259,712 2,739,710 111
 同 十四年 4,054,312 1,302,612 2,751,700 112
 本表には蕃地の蕃社に居住する蕃人を除き、平地の蕃社に居住する蕃人は之を算入せり。

二 内地其他の累年人口指數(各年末現在)

年	臺灣	朝鮮	樺太	關東州	北海道	内地府縣
大正元年	100	100	100	100	100	100
二年	101	101	101	101	101	101
三年	102	102	102	102	102	102
四年	103	103	103	103	103	103
五年	104	104	104	104	104	104
六年	105	105	105	105	105	105
七年	106	106	106	106	106	106
八年	107	107	107	107	107	107
九年	108	108	108	108	108	108

同九年	二〇	二七	二六	二五
同十年	二二	二八	二六	二五
同十一年	二四	三〇	二八	二六
同十二年	二六	三二	三〇	二八
同十三年	二八	三三	三二	三〇
同十四年	三〇	三五	三三	三一
昭和元年	三二	三六	三五	三二

朝鮮、樺太、關東州(州内、鐵道附屬地、領事館)は同國統計書に依る。
 北海道、内地府縣は帝國統計年鑑に依る。
 内地府縣及北海道の大正九年以後は十月一日現在なり。

一八 蕃 人

臺灣の蕃人は之をタイヤル、サイセツト、アメン、ツカウ、パイロン、アミ及ヤミの七種族に分つ。昭和元年末現在蕃社数は七百四十、戸數二萬三千二百二十七、人口十三萬八千人なるも、就中五萬千八百九十四人は平地の蕃社に居住するが故に、實際蕃地に居住するもの數は八萬六千七百三十三人なり。
 各種族中人口最も多きはパイロン族にして、總人口の三割を占め、アミ族の二割九分、タイヤル族の二割三分等順次に亞く。

總數	二八、六三三	男	一六、五七〇	女	一二、〇六三	百分比	100
タイヤル	三、七六一		二、〇九四		一、六六七	一三、一	
サイセツト	一、三五一		七三六		五五七	四、七	
アメン	一、八五〇		一、〇四〇		八〇〇	六、三	
ツカウ	二、〇九		一、一〇		九〇	〇、七	
パイロン	四、八九九		三、〇〇		二、八八	二二、二	
アミ	四、八二八		三、〇〇		二、八八	二二、二	
ヤミ	一、六二五		八〇		七八	一、三	

本表中平地の蕃社に居住する蕃人五萬千八百九十四人は本島人として人口統計に計上せらる。

一九 行政區劃

臺灣の地方行政區劃は、幾多の變遷を経たる後、大正九年九月一日に至り、地方官制に根本的改正を加へ、從來の十二廳を五州二廳に改めたりしも、大正十五年七月一日復た澎湖廳を設置して三廳をなし現に五州は之を五市四十五郡に分ち、郡の下には三十一街、二百二十二庄を置き、三廳は之を十支廳に分ち、支廳の下には三街五庄十九區を置く。

全	北	中	南	東	高	臺	花	澎
島	州	州	州	州	州	州	州	州
九	二	八	二	七	一	一	一	一
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳
二	二	二	二	二	二	二	二	二
市	市	市	市	市	市	市	市	市
五	五	五	五	五	五	五	五	五
街	街	街	街	街	街	街	街	街
三	三	三	三	三	三	三	三	三
庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄
三	三	三	三	三	三	三	三	三
區	區	區	區	區	區	區	區	區
九	九	九	九	九	九	九	九	九

本表は昭和二年十二月末現在なり。

二〇 州及廳の面積

五州三廳中、面積の最大なるは薩中州の四百七十八方里餘にして、高雄、薩南、花蓮港、新竹、薩北、薩東の順序を以て之に亞ぎ、澎湖廳は僅かに八方里餘を以て最小の地位を占む。

今之を内地府縣に比較すれば、薩中州は熊本、宮城の中間に、高雄州は山口、三重の中間に、薩南州は愛媛、千葉の中間に、花蓮港廳、新竹州及薩北州は和歌山、京都の中間に、薩東廳は奈良、鳥取の中間に位し、澎湖廳は面積狭小にして比較すへき府縣なし。

一 州及廳の面積

全	薩北	薩南	薩中	薩東	高雄	花蓮	澎湖
薩北州	薩南州	薩中州	薩東州	高雄州	花蓮廳	澎湖廳	
3,333.5	2,863.3	2,586.6	2,771.1	2,551.1	2,151.5	3,664.4	813.3
100	86	78	83	77	67	111	25

鳥取 縣
順位は一道三府四十三縣及州、廳の面積の順位を示す。
三六九四

二 内地府縣との面積比較

鹿	本	宮	山	高	三	愛	千	和	花	新	京	奈	鹿
州	縣	縣	州	州	縣	縣	縣	縣	縣	州	府	縣	縣
八八六	七六七	七〇七	六四六	六一〇	五九七	五九七	五九七	五九七	五九七	五九七	五九七	五九七	五九七
四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

二 州及廳の人口

五州三廳中、人口の最も多きは薩南州の百六萬五千人にして、薩中州は九十萬三千人を以て之に亞き、以下薩北、新竹、高雄、花蓮港、澎湖、臺東の順序を以てし、一方里の人口は澎湖廳の七千五百五十九人最も高く、臺東廳の六百七十九人最も低し。

今之を内地府縣に比較すれば、薩南州は山口、宮城の中間に、薩中、薩北の兩州は岩手、青森の中間に、新竹州は滋賀、沖繩の中間に、高雄州は沖繩、鳥取の中間に位し、花蓮港、臺東及澎湖の三廳は、人口餘りに少くして比較すべき類似の府縣なし。

一 州及廳の人口 (昭和元年末現在)

州	實數	百分比	平地(蕃地を除く)面積	一方里に付人口	全面積
全	4,157,036	100.0	1,141	3,643	18,871
島州	849,933	20.5	1,141	745	2,668
北竹州	633,212	15.2	1,141	555	2,368
新州	955,576	23.0	1,141	837	3,330
臺南州	1,055,215	25.4	1,141	924	3,533
高雄州	1,055,215	25.4	1,141	924	3,533
花蓮港廳	4,000	0.1	1,141	3.5	1,141
澎湖廳	7,555	0.2	1,141	6.6	1,141
臺東廳	679	0.02	1,141	0.6	1,141

二 内地府縣との人口比較

(昭和元年末(内地府縣は大正十年十月一日現在)人口)

府縣	人口
山口縣	1,107,000
宮城縣	1,087,000
岩手縣	1,081,100
青森縣	935,000
北九州府	935,000
滋賀縣	895,576
新州	895,576
新竹州	895,576
臺南州	895,576
高雄州	895,576
花蓮港廳	895,576
澎湖廳	895,576
臺東廳	895,576

澎湖廳 本表には蕃地の蕃社に居住する蕃人を含まず、但し一方里に付人口の全面積には、蕃地居住の蕃人も加へて算出せり。

澎湖
台東
澎湖
内地府縣は帝國統計年鑑に依る。

澎湖
台東

三三 主要都市

臺灣には五市、三十四街あり。就中人口二萬以上の市及街は二十四にして、その第一位を占むるは臺北市の二十萬、之に亞くは臺南市の八萬七千、基隆市の六萬八千、嘉義街の四萬七千、高雄市の四萬六千、臺中市の四萬四千、新竹街の三萬九千等なり。而して東部に於ける廳所在地たる臺東街は僅かに九千、同じく花蓮港街は八千を有するのみなり。

次に州及廳所在地たる五市、三街を内地其他の都市に比較するに、大正十四年十月一日現在に依れば、我が臺北市は大阪、東京、名古屋、京都、神戸、横浜、京城、廣島の八市に亞て實に第九位を占め、長崎市の上に位し、臺南市は平壤、靜岡兩市の中間に、基隆市は松本、福井兩市の中間に、高雄市は秋田、那山兩市の中間に、臺中市は福島、四日市兩市の中間に、新竹街は沼津、戸畑兩市の中間に位す。而して臺東、花蓮港の兩街は共にその人口樺太の首府豊原よりも少し。

一 主要都市の人口 (昭和元年末現在)

總數	内地人		本島人		外國人		順位
	總數	内地人	本島人	外國人	總數	外國人	
臺北市(臺北州)	25,633	21,550	15,690	5,860	3,555	1	
臺南市(臺南州)	8,930	3,800	7,065	745	3,197	2	
基隆市(臺北州)	6,696	1,725	4,779	196	3,724	3	
嘉義街(臺南州)	4,686	719	3,447	194	1,333	4	

高崎市(高州)	12,652	10,000	2,652
鹿港街(新州)	12,212	10,000	2,212
新竹街(新州)	11,784	10,000	1,784
大溪街(新州)	11,784	10,000	1,784
斗六街(新州)	11,784	10,000	1,784
屏東街(高雄)	11,784	10,000	1,784
清水街(高雄)	11,784	10,000	1,784
林豆街(高雄)	11,784	10,000	1,784
林街(高雄)	11,784	10,000	1,784
豐里街(高雄)	11,784	10,000	1,784
南里街(高雄)	11,784	10,000	1,784
宜蘭街(高雄)	11,784	10,000	1,784
淡水街(高雄)	11,784	10,000	1,784
馬公街(澎湖)	11,784	10,000	1,784
四港街(澎湖)	11,784	10,000	1,784
北港街(澎湖)	11,784	10,000	1,784
桃園街(新竹)	11,784	10,000	1,784
北港街(新竹)	11,784	10,000	1,784

彰化街(台中)
臺東街(臺東)
花蓮港街(花蓮港)
本表には人口二萬以上の市及街のみを擧げ、且つ屬所在地たる臺東、花蓮港兩街を掲ぐ。

二 内地其の他の都市との人口比較

廣島	12,652
長崎	12,212
釜山	11,784
大板	11,784
神戶	11,784
東京	11,784
静岡	11,784
松本	11,784
基隆	11,784

昭和元年末現在(括弧内の數字は十月二日現在)

福井 川田 雄田 高島 郡山 福島 四日市 沼津 新原 豊原 豊原 花巻

仁川 田雄 山島 郡山 福島 四日市 沼津 新原 豊原 豊原 花巻

川田 雄田 高島 郡山 福島 四日市 沼津 新原 豊原 豊原 花巻

花巻 豊原 豊原 新原 沼津 四日市 郡山 福島 高島 田雄 川田 仁川

五九六五
五八八五
四七五五
四三六四
四二二五
四〇五三
三九〇三
三七七五
三七七五
二七五
八八七
七八七

(八五七)
(八五七)
(八五七)
(八五七)
(八五七)
(八五七)
(八五七)
(八五七)
(八五七)
(八五七)
(八五七)
(八五七)

朝鮮、樺太は同願國勢調査速報に依る。
内地府縣は帝國統計年鑑に依る。

三三 農業戸數

臺灣の農業戸數は三十九萬戸にして、總戸數の約五割二分を占め、農業者一月當平均耕地面積は二町二甲強に當る。
今之を内地其の他と比較するに、總戸數に對する農業戸數の割合最も大なるは、朝鮮の七割六分三厘にして、臺灣は第二位を占め、樺太は僅かに二割三分三厘を以て最下位に在り。
農業者一月當平均耕地面積の最も大なるは、北海道の四町五段にして、關東州の三町四段、樺太の二町四段之に亞き、臺灣は第四位を占め、内地府縣は一町歩を以て最下位に在り。

臺灣	三九、六〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇
朝鮮	二七、五〇〇	二、七〇〇	一、七〇〇
關東州	九、五〇〇	九、五〇〇	九、五〇〇
樺太	八、七〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇
北海道	一七、三〇〇	一七、三〇〇	一七、三〇〇
内地府縣	五、五〇〇	五、五〇〇	五、五〇〇
總計	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇

本表は昭和元年末の事實なり。
朝鮮、樺太、關東州(州内、鐵道附屬地)は同願統計書に依る。
北海道、内地府縣は農林省統計表に依る。

二四 耕地面積

臺灣の耕地は總面積の二割餘を占め、其の面積は七十九萬六千町歩(八十一萬四千甲)にして内、田三十八萬五千町歩(三十九萬三千甲)畑四十一萬一千町歩(四十二萬甲)なり。今之を内地其の他と比較するに、耕地面積の總面積に對する割合の最大なるは、關東州の五割三分七厘にして、臺灣は之に亞き、朝鮮の二割六厘はその第三位を占む。耕地の内、田の割合畑より大なるは内地府縣のみにして、樺太の如きは全然田を有せず。

内地府縣	耕地面積		百分比	
	田	畑	田	畑
朝鮮	五、九六五	二、三六五	二〇・七	八・九
樺太	一、五七〇	一、〇〇〇	六〇・五	三九・五
關東州	三、〇七五	一、〇〇〇	七五・五	二四・五
北海道	一、四〇〇	一、〇〇〇	五八・三	四一・七
北地府	一、四〇〇	一、〇〇〇	五八・三	四一・七
總數	一、五七〇	一、〇〇〇	六〇・五	三九・五

本表は昭和元年末の事實なり。
 朝鮮、樺太、關東州(州内、鐵道附屬地)は同縣統計書に依る。
 北海道、内地府縣は農林省統計表に依る。

二五 水利

臺灣に於ける埤圳の数は、七千五百六十四にして内、水利組合百二、公共埤圳三、認定外埤圳七千四百五十九なり。又其の灌溉排水面積は三十八萬二千甲にして内、其の五割は水利組合の灌溉に屬す。

總數	埤圳數	灌溉排水面積	灌溉排水面積百分比
水利組合	102	20,000	100.0
公共埤圳	3	15,000	50.6
認定外埤圳	7,459	9,970	36.0
總計	7,564	45,000	32.4

本表は昭和元年度末現在の事實なり。
本表の外事業計畫中の組合二あり。

二六 農 産

臺灣の農産物は、昭和元年中の總生産價額二億五千四百萬圓にして内、普通作物一億六千七百萬圓、特用作物六千五百萬圓、園藝作物二千萬圓なり。
 更に之を作物別に觀るに、米は一億四千萬圓を以て第一位を占め、甘蔗は五千萬圓を以て之に亞き、甘藷の二千萬圓、蔬菜類の一千萬圓、茶の七百五十萬圓、苧麻の六百三十九萬圓、落花生の二百七十萬圓、豆類の百六十四萬圓、柑橘の百六十三萬圓等順次之に亞く。

總額	生産價額	生産價額 百分比	作付面積	收穫高
普通作物	一,600,000,000	100.0	—	—
米(玄米)	1,400,000,000	87.5	—	—
甘蔗	500,000,000	31.3	—	—
豆類	164,000,000	10.2	—	—
小麥	70,000,000	4.4	—	—
其他	230,000,000	14.3	—	—
特用作物	650,000,000	40.6	—	—
甘蔗	5,000,000,000	313.1	—	—

茶	落花生	煙草	黃麻	苧麻	苧麻	胡麻	藍	香花	其他	園藝作物	甘蔗	龍眼	檳榔	鳳梨	椰子	李	蔬菜	其他	
75,000,000	1,100,000,000	800,000,000	1,300,000,000	1,200,000,000	1,100,000,000	1,000,000,000	900,000,000	800,000,000	700,000,000	600,000,000	500,000,000	400,000,000	300,000,000	200,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
0.5	7.2	5.3	8.4	7.7	7.2	6.7	6.2	5.7	5.2	4.7	3.8	3.3	2.8	2.3	1.8	1.3	1.3	1.3	1.3
100,000	1,000,000	100,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

蠶 繭

二六〇〇

〇

一

?

二七 畜 産

臺灣の畜産物生産總價額は、昭和元年に三千七百萬圓を算し内、家畜生産三千二百三十萬圓、家禽生産五百萬圓、牛乳三十七萬圓なり。
 家畜生産中、豚は二千九百萬圓を以て第一位を占め、水牛の百九十萬圓之に亞く。家禽生産中第一位を占むるは鶏の三百九十萬圓なり。

總 家
 水 牛 牛 畜 類
 黄 牛 牛 畜 類
 其 他 の 牛 牛 畜 類
 豚 山 豚 牛 畜 類
 其 他 羊 牛 畜 類
 家 禽 鶏 牛 畜 類

生産價額
 三、八二五、三三三
 三、二六六、六一一
 一、九四三、五五五
 六、五八六、三三三
 一、四八六、一一一
 三、四四〇、三三三
 三、八七五、三三三
 一、八三三、三三三
 三、〇六六、三三三
 三、九三三、三三三
 六、八三三、三三三

生産價額 百分比例
 一〇〇
 八五・六
 五一
 一八
 〇・四
 七・七
 〇・六
 〇
 三三
 一〇・五
 二一

乳 鳥
面 鷄
牛 七

三六六六
一八〇八
三三〇〇

一〇〇人

二八 林 産

臺灣の林産物生産總價額は、昭和元年に一千二百八十萬圓を算し内、官行生産價額三百四十萬圓、一般生産價額九百四十萬圓なり。官行生産價額中第一位を占むるは丸太の二百二十萬圓にして、一般生産價額中にては薪の三百萬圓第一位を占む。

品名	價額	價額百分比
總 官行生産價額	三六六六〇〇	一〇〇
丸 太	二二八八七	六二
製 材	一〇七五六	二九
副生品及副産物	三三三三	九
一般生産價額	九四六六六	二六
竹 材	一七〇〇八	四
木 材	一七五九三	四
藤 材	三三三三	一
木 材	一五九二七	四
薪	三二五二七	八
炭	六三六五	一

道 薯 草 70.5
 薯 草 50.5
 黄 椰 50.1
 其 他 10.4
 官行生産價額は營林所に於ける賣拂價額にして、昭和元年度の事實を掲せり。

二九 鑛 産

臺灣の鑛産總價額は、昭和元年に一千六百七十萬圓を算し内、石炭は總産價額の七割九分、即ち一千三百萬圓を以て第一位を占め、金銅鑛及石油は百十萬圓を以て之に亞き、天然揮發油の四十六萬圓、金の四十萬圓等順次に亞く。

品名	産 額	價 額	價額百分比例
石 炭	1,645,200	1,155,300	100.0
石 油	99,300	77,300	67.3
沈 澱 銅	367,500	31,900	2.8
石 油	68,000	110,000	9.5
金 銅	142,600	133,000	11.5
銀 黄	55,900	60,700	5.3
砂 金	29,500	17,600	1.5
天然揮發油	460,000	97,000	8.4
總 計	2,688,100	1,672,800	148.1

三〇 水産

臺灣の水産總價額は、昭和元年には一千七百二十萬圓を算し内、水産漁獲物一千萬圓、養殖場漁獲物三百三十萬圓、水産製造物二百八十萬圓、製鹽八十四萬圓なり。
 更に之を品別に見れば、虱目魚の二百萬圓第一位を占め、鱈の百九十萬圓、鯛の百八十萬圓、鮐の百六十萬圓、鱒の百四十萬圓等順次に亞く。

水産漁獲物		總價額	價額百分比
鯛	141,000,000	100.0	
虱目魚	1,815,000	1.3	
鮐	1,550,000	1.1	
鱒	4,300,000	3.1	
鱈	1,850,000	1.3	
鰻	1,100,000	0.8	
鯖	1,000,000	0.7	
鮭	1,300,000	0.9	
鮪	1,400,000	1.0	
魚	1,100,000	0.8	
花魚	1,000,000	0.7	
總計	1,400,000,000	100.0	

製其
鹽他

公
二
三

九
二

鹽	鱈	鱒	鱈	鮭	鱈	水產	其	鮫	魚	刺	草	鱈	鱈	養殖	其
魚	魚	魚	魚	魚	魚	他	他	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	他

三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

三一 工業

臺灣の工業總生産價額は、昭和元年に二億三千六百萬圓を算し内、砂糖の一億五千五百萬圓は群を抜いてその第一位を占め、再製茶の一千二百萬圓、酒精の五百萬圓、帽子の四百萬圓、木製品の三百九十萬圓、セメントの三百五十萬圓等順次に続く。

品名	生産價額	生産價額 百分比例
總額	三六,〇五二,九七〇	100.0
砂糖	一五,〇三九,〇〇〇	四一.八
酒精	五,〇〇〇,〇〇〇	一三.九
再製茶	三,〇〇〇,〇〇〇	八.三
原動機及其附屬機械類其他	三,〇〇〇,〇〇〇	八.三
木製品	三,〇〇〇,〇〇〇	八.三
セメント	三,〇〇〇,〇〇〇	八.三
染色	三,〇〇〇,〇〇〇	八.三
麵粉	三,〇〇〇,〇〇〇	八.三
煉瓦	三,〇〇〇,〇〇〇	八.三
耐火材料	三,〇〇〇,〇〇〇	八.三
其他	三,〇〇〇,〇〇〇	八.三

品名	生産價額	生産價額 百分比例
金銀細工	一,〇〇〇,〇〇〇	二.八
味増及醬油	一,〇〇〇,〇〇〇	二.八
植物性油	一,〇〇〇,〇〇〇	二.八
及同槽油	一,〇〇〇,〇〇〇	二.八
敷瓦及屋根瓦	一,〇〇〇,〇〇〇	二.八
金銀	一,〇〇〇,〇〇〇	二.八
製紙	一,〇〇〇,〇〇〇	二.八
綿布、麻布類	一,〇〇〇,〇〇〇	二.八
精蜜(稅抜)	一,〇〇〇,〇〇〇	二.八
帽子	一,〇〇〇,〇〇〇	二.八
靴	一,〇〇〇,〇〇〇	二.八
製氷	一,〇〇〇,〇〇〇	二.八
竹工	一,〇〇〇,〇〇〇	二.八
鳳梨罐	一,〇〇〇,〇〇〇	二.八
其他	一,〇〇〇,〇〇〇	二.八

三三糖業

臺灣の糖業は昭和二年期に於て、公稱資本金三億九千九百萬圓、作業工場數百六十九、作業能力四萬一千米噸を有し、其の製糖高六億八千五百萬斤に達す。就中新式製糖會社の數は十三にして作業工場數四十五、作業能力三萬九千九百九十九米噸を有し、その製糖高六億七千七百九十九萬斤を算す。

總數	公稱資本金	作業工場數	作業能力	製糖高	製糖高百分比
新式製糖會社	三,999,000,000	13	39,999	6,799,000,000	100.0
臺灣製糖	3,000,000,000	32	11,000	1,800,000,000	26.5
新興製糖	1,100,000,000	5	3,500	500,000,000	7.4
明治製糖	3,500,000,000	2	3,500	1,000,000,000	14.7
大日本製糖	3,500,000,000	2	3,500	1,000,000,000	14.7
東洋製糖	3,500,000,000	2	3,500	1,000,000,000	14.7
鹽水港製糖	3,500,000,000	2	3,500	1,000,000,000	14.7
新高製糖	3,500,000,000	2	3,500	1,000,000,000	14.7
帝國製糖	3,500,000,000	2	3,500	1,000,000,000	14.7
臺南製糖	3,500,000,000	2	3,500	1,000,000,000	14.7

製糖會社	公稱資本金	作業工場數	作業能力	製糖高	製糖高百分比
臺東製糖	1,700,000,000	1	3,500	1,000,000,000	14.7
新竹製糖	7,500,000,000	1	3,500	1,000,000,000	14.7
沙糖製糖	3,500,000,000	1	3,500	1,000,000,000	14.7
恒春製糖	3,500,000,000	1	3,500	1,000,000,000	14.7
改瓦糖廠	3,500,000,000	1	3,500	1,000,000,000	14.7
舊式糖廠	3,500,000,000	1	3,500	1,000,000,000	14.7

昭和二年期は、大正十五年十一月より昭和二年十月に至る期間を云ふ。

三 貿易

臺灣の貿易は之を外國貿易及内地貿易(臺灣内地間貿易)の二種に分つべきも、今之を總括すれば明治三十年の三千一百萬圓より大正元年の一億二千五百萬圓に進みたり。然るに大正二、三の兩年は砂糖の減産一般商況の不振に依り少しく減退したるも、大正五年には世界大戦の影響を受けて、一億七千七百萬圓に達し、大正六年には二億圓臺に上り、大正八年には更に三億圓臺を突破せり。然るに大正十年及十一年には世界經濟界の不況に伴ひ再び二億七、八千萬圓に減退したりしも、大正十二年には復た三億圓臺に上り、昭和元年には四億三千萬圓に達し、人口一人當百四圓を算せり。

次に貿易總額に對する内外兩貿易の割合を觀るに、内地貿易は常に過半數を占め少きも七割、多きは七割八分に達す。

一 貿易總表

年	總額		指數		外國貿易		内地貿易		百分比例	
	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	外國貿易	内地貿易
大正元年	125,000,000	100	100	100	62,500,000	62,500,000	50,000,000	12,500,000	50	50
同二年	140,000,000	112	112	112	68,000,000	72,000,000	55,000,000	17,000,000	49	51
同三年	160,000,000	128	128	128	75,000,000	85,000,000	60,000,000	25,000,000	47	53
同四年	170,000,000	136	136	136	80,000,000	90,000,000	65,000,000	25,000,000	47	53
同五年	180,000,000	144	144	144	85,000,000	95,000,000	70,000,000	25,000,000	47	53
同六年	190,000,000	152	152	152	90,000,000	100,000,000	75,000,000	25,000,000	47	53
同七年	200,000,000	160	160	160	95,000,000	105,000,000	80,000,000	25,000,000	47	53
同八年	210,000,000	168	168	168	100,000,000	110,000,000	85,000,000	25,000,000	47	53
同九年	220,000,000	176	176	176	105,000,000	115,000,000	90,000,000	25,000,000	47	53
同十年	230,000,000	184	184	184	110,000,000	120,000,000	95,000,000	25,000,000	47	53
同十一年	240,000,000	192	192	192	115,000,000	125,000,000	100,000,000	25,000,000	47	53
同十二年	250,000,000	200	200	200	120,000,000	130,000,000	105,000,000	25,000,000	47	53
同十三年	260,000,000	208	208	208	125,000,000	135,000,000	110,000,000	25,000,000	47	53
同十四年	270,000,000	216	216	216	130,000,000	140,000,000	115,000,000	25,000,000	47	53
同十五年	280,000,000	224	224	224	135,000,000	145,000,000	120,000,000	25,000,000	47	53
同十六年	290,000,000	232	232	232	140,000,000	150,000,000	125,000,000	25,000,000	47	53
同十七年	300,000,000	240	240	240	145,000,000	155,000,000	130,000,000	25,000,000	47	53
同十八年	310,000,000	248	248	248	150,000,000	160,000,000	135,000,000	25,000,000	47	53
同十九年	320,000,000	256	256	256	155,000,000	165,000,000	140,000,000	25,000,000	47	53
同二十年	330,000,000	264	264	264	160,000,000	170,000,000	145,000,000	25,000,000	47	53

年	總額		指數		輸出		輸入		輸入超過	
	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓
大正元年	125,000,000	100	100	100	62,500,000	62,500,000	50,000,000	12,500,000	50	50
同二年	140,000,000	112	112	112	68,000,000	72,000,000	55,000,000	17,000,000	49	51
同三年	160,000,000	128	128	128	75,000,000	85,000,000	60,000,000	25,000,000	47	53
同四年	170,000,000	136	136	136	80,000,000	90,000,000	65,000,000	25,000,000	47	53
同五年	180,000,000	144	144	144	85,000,000	95,000,000	70,000,000	25,000,000	47	53
同六年	190,000,000	152	152	152	90,000,000	100,000,000	75,000,000	25,000,000	47	53
同七年	200,000,000	160	160	160	95,000,000	105,000,000	80,000,000	25,000,000	47	53
同八年	210,000,000	168	168	168	100,000,000	110,000,000	85,000,000	25,000,000	47	53
同九年	220,000,000	176	176	176	105,000,000	115,000,000	90,000,000	25,000,000	47	53
同十年	230,000,000	184	184	184	110,000,000	120,000,000	95,000,000	25,000,000	47	53
同十一年	240,000,000	192	192	192	115,000,000	125,000,000	100,000,000	25,000,000	47	53
同十二年	250,000,000	200	200	200	120,000,000	130,000,000	105,000,000	25,000,000	47	53
同十三年	260,000,000	208	208	208	125,000,000	135,000,000	110,000,000	25,000,000	47	53
同十四年	270,000,000	216	216	216	130,000,000	140,000,000	115,000,000	25,000,000	47	53
同十五年	280,000,000	224	224	224	135,000,000	145,000,000	120,000,000	25,000,000	47	53
同十六年	290,000,000	232	232	232	140,000,000	150,000,000	125,000,000	25,000,000	47	53
同十七年	300,000,000	240	240	240	145,000,000	155,000,000	130,000,000	25,000,000	47	53
同十八年	310,000,000	248	248	248	150,000,000	160,000,000	135,000,000	25,000,000	47	53
同十九年	320,000,000	256	256	256	155,000,000	165,000,000	140,000,000	25,000,000	47	53
同二十年	330,000,000	264	264	264	160,000,000	170,000,000	145,000,000	25,000,000	47	53

昭同同同同同同同同
和十十十十
元四三二一
は移入超過なり。
昭和十元

昭和十元	昭和一十元	昭和二十元	昭和三十元	昭和四十元	昭和五十元	昭和六十元	昭和七十元	昭和八十元	昭和九十元	昭和一十元	昭和二十元	昭和三十元	昭和四十元	昭和五十元	昭和六十元	昭和七十元	昭和八十元	昭和九十元
...

昭同同同同同同同同
和十十十十
元四三二一
は輸出超過なり。
昭和十元

昭和十元	昭和一十元	昭和二十元	昭和三十元	昭和四十元	昭和五十元	昭和六十元	昭和七十元	昭和八十元	昭和九十元	昭和一十元	昭和二十元	昭和三十元	昭和四十元	昭和五十元	昭和六十元	昭和七十元	昭和八十元	昭和九十元
...

三 内地貿易

三四 對手國別外國貿易

臺灣の外國貿易は大體に於て輸入超過を示す。而して對手國中支那は累年主要の地位に在り。即ち輸出貿易總額に對する其の割合は少くも二割八分五厘多きは六割を占め、輸入貿易に於ては少くも三割四分、多きは五割七分を占む。

今昭和元年の外國貿易に就て觀るに、貿易總額一億一千萬圓内、輸出額は四千九百萬圓にして、就中支那の二千九百萬圓最も多く、總額の六割に當り、北米合衆國の六百萬圓、香港の四百四十萬圓、蘭領印度の四百萬圓等順次之に亞く。輸入額は六千二百萬圓中第一位を占むるは支那の二千七百萬圓にして、總額の四割三分に當り、英領印度の一千萬圓、獨逸の五百五十萬圓、蘭領印度の四百萬圓、英吉利の二百七十萬圓等順次之に亞く。

總額	一輸 出				
	昭和元年	大正十四年	同十三年	同十二年	同十一年
支那	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000
香港	4,400,000	4,400,000	4,400,000	4,400,000	4,400,000
蘭領印度	4,000,000	4,000,000	4,000,000	4,000,000	4,000,000
英領印度	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
獨逸	5,500,000	5,500,000	5,500,000	5,500,000	5,500,000
英吉利	2,700,000	2,700,000	2,700,000	2,700,000	2,700,000
北米合衆國	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000
佛蘭西	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
比律賓	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
總額	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000

總額	二輸 入				
	昭和元年	大正十四年	同十三年	同十二年	同十一年
支那	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000
香港	4,400,000	4,400,000	4,400,000	4,400,000	4,400,000
蘭領印度	4,000,000	4,000,000	4,000,000	4,000,000	4,000,000
英領印度	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
獨逸	5,500,000	5,500,000	5,500,000	5,500,000	5,500,000
英吉利	2,700,000	2,700,000	2,700,000	2,700,000	2,700,000
北米合衆國	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000
佛蘭西	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
比律賓	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
其他	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
總額	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000

溙太刺利	六五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
波 斯	六五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
獨 逸	五五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
英 吉 利	三五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
北米合衆國	三五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
英領アメリカ	九四	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
其 他	三五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五

三五 支那、香港及南洋貿易

臺灣の外國貿易中、臺灣と最も密接の關係を有する支那、香港及南洋との貿易を再檢するに、年に依り多少の相異あるも、大體に於て常に重要な地位を占む。即ち昭和元年に就て觀るに、輸出額は四千萬圓にして、輸出貿易總額の約八割一分を占め、輸入貿易は四千五百萬圓にして、輸入貿易總額の七割三分に當れり。

一 輸 出

總 額	昭和元年	大正四年	同十三年	同十二年	同十一年	同十年	同九年
支 那	四、七〇〇	五、〇〇〇	三、二〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	九、一七六	四、三六四
香 港	四、〇〇〇	五、〇〇〇	三、二〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	九、一七六	四、三六四
南 洋	六、〇〇〇	六、三三三	五、九三三	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇

本表の南洋とは英領海峽植民地、英領ボルネオ、蘭領印度、比律賓、英領印度、佛領印度支那、暹羅及溙太刺利を謂ふ。以下同じ。

二 輸 入

總 額	昭和元年	大正四年	同十三年	同十二年	同十一年	同十年	同九年
支 那	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
香 港	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
南 洋	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三

支那、香港、南洋貿易總額
に對する百分
比例

大正十年	同 十一年	同 十二年	同 十三年	同 十四年	昭和元年
輸出	輸出	輸出	輸出	輸出	輸出
1000	1000	1000	1000	1000	1000
699	699	699	699	699	699
301	301	301	301	301	301
輸出	輸出	輸出	輸出	輸出	輸出
1000	1000	1000	1000	1000	1000
699	699	699	699	699	699
301	301	301	301	301	301

香港、南洋、支那
三比
例

大正十年	同 十一年	同 十二年	同 十三年	同 十四年	昭和元年
輸出	輸出	輸出	輸出	輸出	輸出
787	787	787	787	787	787
687	687	687	687	687	687
957	957	957	957	957	957
輸出	輸出	輸出	輸出	輸出	輸出
787	787	787	787	787	787
687	687	687	687	687	687
957	957	957	957	957	957

三六 重要品別外國貿易

臺灣の外國貿易中輸出品の主要なるものは、茶、石炭、砂糖、樟腦、酒精等なり。今昭和元年に就て之を觀るに、茶は一千二百三十萬圓を以て第一位を占め、石炭の八百四十萬圓、砂糖の三百萬圓、酒精の二百萬圓、樟腦の百九十萬圓等順次に亞く。

次に輸入品の主要なるものは、豆油精、砂糖、米、木材及板、硫酸アンモニウム、ガンニ一酸、石油、豆類等にして、昭和元年には豆油精の千三百萬圓第一位を占め、米の九百萬圓、硫酸アンモニウムの六百八十萬圓、砂糖の五百三十萬圓、豆類の三百六十萬圓、木材及板並ガンニ一酸の各二百四十萬圓、石油の百十萬圓、小麦の百萬圓等順次に亞く。

一 輸出

茶	昭利元年	大正元年	同十三年	同十二年	同十一年	同十年	同元年
砂糖	三二〇萬圓	三〇〇萬圓	三〇〇萬圓	一〇〇〇千圓	九〇〇萬圓	七九〇萬圓	六八〇萬圓
石炭	三〇〇萬圓	二四〇萬圓	二〇〇萬圓	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓
樟腦	三〇〇萬圓	二〇〇萬圓	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓
酒精	二〇〇萬圓	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓
豆油精	二〇〇萬圓	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓
米	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
豆類	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
木材	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
板	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
硫酸アンモニウム	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
ガンニ一酸	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
石油	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
小麦	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓

綿織物	昭利元年	大正元年	同十三年	同十二年	同十一年	同十年	同元年
乾魚及鹹魚	二〇〇萬圓	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓
セメント	二〇〇萬圓	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓
洋麻	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
酒	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
錫	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
豆油	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
砂糖	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
阿片	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
米	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
木材	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
包油	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
煙草	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
紙類	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓

二 輸入

豆油	昭利元年	大正元年	同十三年	同十二年	同十一年	同十年	同元年
砂糖	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
阿片	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
米	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
木材	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
包油	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
煙草	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓
紙類	一〇〇萬圓	八〇〇萬圓	七〇〇萬圓	六〇〇萬圓	五〇〇萬圓	四〇〇萬圓	三〇〇萬圓

小	1,000	600	1,000	600	300	300	100
硝酸アンモ	600	500	1,000	900	300	300	100
ニウム(粗製)	600	500	1,000	900	300	300	100
ガンニ-蕨(故共)	200	200	100	100	100	100	100

三七 重要品別内地貿易

臺灣の内地貿易中移出品の主要なるものは、砂糖、米、芭蕉實、樟腦及樟腦油、木材及板材、酒精、石炭、鐵筋、機造バナマ帽等なり。今昭和元年に就て之を觀るに、砂糖は九千八百萬圓を以て第一位を占め、米の六千三百萬圓、芭蕉實の一千萬圓、樟腦及樟腦油の四百六十萬圓、酒精の四百萬圓、木材及板材の三百萬圓、鳳梨罐詰及機造バナマ帽の各百七十萬圓、石炭の百四十萬圓等順次之に亞く。

次に移入品の主要なるものは、綿織及絹織布、鹹魚及乾魚、肥料、鐵、酒類、木材及板材、紙、小麥粉等にして、昭和元年には綿織及絹織布の一千九百萬圓を以て第一位を占め、鐵の六百二十萬圓、鹹魚及乾魚の六百萬圓、木材及板材の四百七十萬圓、肥料の四百萬圓、酒類の三百九十萬圓、小麥粉の三百四十萬圓、紙の三百萬圓等順次之に亞く。

一 移出

	昭和元年	大正四年	同十三年	同十二年	同十一年	同十年	同元年
砂	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
米	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300
酒精	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
樟腦及樟腦油	4,600	4,600	4,600	4,600	4,600	4,600	4,600
芭蕉實	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
切乾葉	200	200	200	200	200	200	200

調
合
肥
料
カ
ン
ニ
一
麻
及
紙
漿
寸
黃
麻
紙
米
製
鐵
製
煙
草
小
粉
各
種
精
製
食
油
石
油
綿
織
物
毛
織
物
砂
糖
モ
リ
ス
肌
衣
(
各
種
)

一〇三	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇
一〇三	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇
一〇三	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇
一〇三	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇
一〇三	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇
一〇三	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇
一〇三	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇
一〇三	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇
一〇三	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇
一〇三	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇

橫
道
パ
ナ
マ
帽
セ
メ
ン
ト
食
鹽
木
材
及
板
材
石
炭
鳳
梨
罐
詰
二
移
入
綿
織
及
絹
織
布
鹹
魚
及
乾
魚
鐵
木
材
及
板
材
消
酒
麥
酒
錫
過
錫
酸
肥
料
硫
酸
ア
モ
ニ
ウ
ム

一六六	一七〇	一七四	一七六	一七八	一八〇
一六六	一七〇	一七四	一七六	一七八	一八〇
一六六	一七〇	一七四	一七六	一七八	一八〇
一六六	一七〇	一七四	一七六	一七八	一八〇
一六六	一七〇	一七四	一七六	一七八	一八〇
一六六	一七〇	一七四	一七六	一七八	一八〇
一六六	一七〇	一七四	一七六	一七八	一八〇
一六六	一七〇	一七四	一七六	一七八	一八〇
一六六	一七〇	一七四	一七六	一七八	一八〇
一六六	一七〇	一七四	一七六	一七八	一八〇
一六六	一七〇	一七四	一七六	一七八	一八〇

三八 港別貿易

昭和元年に於ける臺灣の輸移出入貿易總額四億三千萬圓を港別に觀れば、基隆の二億五千萬圓第一位を占め、總額の五割八分に當り、高雄の一億六千萬圓之に亞て三割七分を占め、安平の一千三百萬圓、淡水の三百七十萬圓を始め殘餘の諸港は之を合算するも尙僅かに總額の五分を占むるに過ぎず。

今之を内地其の他の諸港と比較するに、基隆は神戸、横濱、大阪、大連に亞て第五位を占めて大連と釜山の中間に、高雄は第七位を占めて釜山と古屋との中間に在り。更に安平は武豐と函館との中間に、淡水は三角と糸崎との中間に位むす。

神戶	大阪	大連	基隆	高雄	古屋	門司	總額
輸	輸	輸	輸	輸	輸	輸	輸
1,053,486	6,022,000	7,025,000	4,832,000	3,055,000	3,000,000	2,000,000	27,912,472
入	入	入	入	入	入	入	入
1,533,486	6,966,000	3,055,000	3,000,000	1,713,000	1,501,000	87,377	10,841,862
總額	總額	總額	總額	總額	總額	總額	總額
2,586,972	13,988,000	10,080,000	7,832,000	4,768,000	4,501,000	2,871,000	38,754,334

仁川	安南	三國	淡島	系	總額
輸	輸	輸	輸	輸	輸
3,768,600	1,818,000	1,818,000	1,818,000	1,818,000	10,040,600
入	入	入	入	入	入
6,022,000	1,818,000	1,818,000	1,818,000	1,818,000	12,396,000
總額	總額	總額	總額	總額	總額
9,790,600	3,636,000	3,636,000	3,636,000	3,636,000	22,436,600

臺灣及朝鮮の輸出中には移出を、輸入中には移入を含む。

朝鮮、關東州は同統計書に依る。

北海道、内地府縣は帝國統計年鑑に依る。

三九 財政

臺灣總督府特別會計が全く國庫の補助を受けずして、獨立の實を擧ぐるに至りしは、明治三十八年度なりき。而して同年度の歳入は僅かに二百五十萬圓に過ぎざりしか、爾來年々共に其の額を増大し、大正八年度には一億圓を突破し、大正九年度には一億一千九百萬圓に増額したりしか、大正十年度よりは少しく減退を示したり。然るに昭和元年度には一億三千萬圓に増額し最近の紀錄を作りたり。

次に歳入中其の主要部分を占むるは、官業及官有財産收入にして、其の歳入總額に對する割合は、年に依り多少の高低あるも、少きは三割九分、多きは六割五分を占む。

歳出は明治三十八年度の二千萬圓より、大正八年度の七千二百萬圓に増加し、更に大正十一年度には九千六百萬圓に増額せり。然るに大正十二年度以降は八千萬圓に減退したりしも昭和元年度には再び九千萬圓に増額せり。

年次	總額		租稅		其他		歳入百分比例		歳出指數
	千圓	百圓	千圓	百圓	千圓	百圓	租稅	其他	
明治三十八年度	20,000,000	2,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	1,000,000	50.0	49.5	100
大正元年度	29,000,000	2,900,000	15,000,000	1,500,000	14,000,000	1,400,000	51.7	48.3	100
同 六年度	45,000,000	4,500,000	20,000,000	2,000,000	25,000,000	2,500,000	44.4	55.6	100
同 七年度	65,000,000	6,500,000	25,000,000	2,500,000	40,000,000	3,500,000	38.5	61.5	100

年次	總額	租稅	其他	歳入百分比例	歳出指數
同 八年度	100,100,000	50,000,000	50,100,000	50.0	100
同 九年度	124,200,000	62,000,000	62,200,000	50.0	100
同 十年度	133,000,000	66,000,000	67,000,000	50.0	100
同 十一年度	133,000,000	66,000,000	67,000,000	50.0	100
同 十二年度	122,000,000	61,000,000	61,000,000	50.0	100
同 十三年度	122,000,000	61,000,000	61,000,000	50.0	100
同 十四年度	122,000,000	61,000,000	61,000,000	50.0	100
同 昭和元年度	122,000,000	61,000,000	61,000,000	50.0	100
同 二年度	122,000,000	61,000,000	61,000,000	50.0	100

本表中大正十三年度迄は決算、大正十四年度及昭和元年度は現計、昭和二年度は豫算なり。

四〇 專賣

專賣の事實は現在、阿片、食鹽、樟腦、煙草及酒の五種なるが、就中酒は大正十一年七月以降の實施さす。今最近十五年間に於ける賣渡價額を觀るに、大正元年度に千七百萬圓なりしもの、大正六年度には二千萬圓を越ゆるに至り、更に大正九年度には三千萬圓を突破したるも、翌大正十年度には經濟界の世界的不況に伴ひ、樟腦の如きは特に前年度の一千萬圓より五百萬圓に減退したる爲め、總額も二千五百萬圓に低下したりしか、大正十一年度には稍や景況を回復したるを、酒專賣實施の結果總額三千四百萬圓に達し、大正十二年度には四千萬圓を突破し、大正十四年度には四千五百萬圓に増加せり。

最近人造樟腦の需用旺盛となり是が對策上樟腦に關する事項は一般に公表せざる事なきりたる爲め、昭和元年度の賣渡總價額には樟腦に關するものを除きて掲せり。

大正元年度
二年年度
三年年度
四年年度
五年年度
六年年度
七年年度

賣渡總價額
一七〇六九二
一八七、七〇〇
一八八、八〇〇
一八八、八〇〇
一八八、八〇〇
一九五、七〇〇
二〇〇、〇〇〇

阿片煙膏
六、七〇六
六、八〇〇
六、八〇〇
六、八〇〇
六、八〇〇
六、八〇〇
六、八〇〇

食鹽
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇

同 八年年度
同 九年年度
同 十年年度
同 十一年度
同 十二年度
同 十三年度
同 十四年度
昭和元年度
大正元年度
二年年度
三年年度
四年年度
五年年度
六年年度
七年年度
八年年度
九年年度
十年年度

樟腦及樟腦油
三、七〇六
三、七〇六
三、七〇六
三、七〇六
三、七〇六
三、七〇六
三、七〇六
三、七〇六
三、七〇六
三、七〇六
三、七〇六
三、七〇六
三、七〇六
三、七〇六
三、七〇六
三、七〇六
三、七〇六

煙草
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇
七、〇〇〇

酒
一、〇〇〇
一、〇〇〇
一、〇〇〇
一、〇〇〇
一、〇〇〇
一、〇〇〇
一、〇〇〇
一、〇〇〇
一、〇〇〇
一、〇〇〇
一、〇〇〇
一、〇〇〇
一、〇〇〇
一、〇〇〇
一、〇〇〇
一、〇〇〇
一、〇〇〇

昭和十一年度	六五三、九七七	一〇七、四六六	六四四、五一一	三〇
同十二年度	一、三三三、四九三	一〇七、四六六	一、二二六、〇二七	三〇
同十三年度	一、〇九六、六三三	一〇七、四六六	九八九、一六七	三〇
同十四年度	一、〇六六、四三三	一〇七、四六六	九五八、九六七	三〇
昭和元年度	三〇六、六三三	一〇七、四六六	一九九、一六七	三〇

樟腦及桐油には副産物を含む。

四一銀行

臺灣に於ける銀行は、昭和元年十二月末現在に依れば行數七(内、日本勸業銀行及三十四銀行は支店)にして、島内に於ける支店及出張所數合計四十六、資本金九千九百萬圓、(拂込金八千五百萬圓)、準備金二百二十萬圓、純益金六百萬圓、預金一億二百萬圓、貸出金二億五千萬圓なり。

總行	支店	出張所	資本金		準備金	純益金	年末現在	
			公積金	資本金			借入金	島内預金
日本勸業銀行	一	四	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
華南銀行	一	一	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
臺灣商工銀行	一	一	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
彰化銀行	一	一	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
臺灣貯蓄銀行	一	一	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
三十四銀行	一	一	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
臺灣支店	一	一	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

日本勸業銀行支店及三十四銀行支店の資本金は本島各支店に於ける元金を掲ぐ、但し勸業銀行支店元金は毎月末本店勘定の平均額なり。

四二物價

臺灣の物價は世界大戰の影響を受くること比較的少かりしも、戦局の進展に伴ひ、大正七年頃より著しき昂騰を示し、大正九年にはその絶頂に達したりしか、翌大正十年以降は稍や低落の趨勢に在りたるも、最近に至り少しく高率を示せり。即ち主要なる日常生活必需品の臺北市に於ける物價の最近十五箇年の指數はよくその趨勢を示せり。

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	大
十	九	八	七	六	五	四	三	二	元	正
一	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	米
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	糖(白)
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	麵(太)
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	油(菜)
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	肉(牛)
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	豚肉
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	木炭
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	薪

昭和十三年	三〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
同十四年	三〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
同十五年	三〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
同十六年	三〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
同十七年	三〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
同十八年	三〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
同十九年	三〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
同二十年	三〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
同二十一年	三〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
同二十二年	三〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
同二十三年	三〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

四三 教育

臺灣の教育は、大正十一年二月發布の臺灣教育令に依り、從來の方針を一變し、初等教育を除くの外は、悉く内地人共學の制を採るに至れり。而して初等教育機關たる小學校及公學校の八百六十五校、児童二十四萬一千人、高等普通教育機關たる高等學校、中學校及高等女學校の二十一校、生徒八千五百人、師範學校は三校、生徒千五百人、實業教育機關たる實業補習學校、農林學校、工業學校、商業學校は二十九校、生徒二千六百人、專門教育機關たる醫學專門學校、高等農林學校、高等商業學校、商業專門學校の五校、生徒七百人、私立各種學校十七校、生徒二千四百人、書房百三十六、生徒五千五百人あり。

次に初等教育機關を内地其他と比較するに、人口千に對する小學校児童數は、樺太の百六十三人七分最も多く、關東州の百一人七分最も少く、我臺灣は百三十二人三分を以て朝鮮、關東州の上に位す。又臺灣の公學校、朝鮮の官公私立普通學校、樺太の土人教育所及關東州の官立公學校並公立普通學校児童の人口千に對する割合は、樺太の百二十五人七分最も多く、我臺灣は五十五人一分を以て之に亞き、朝鮮は僅かに二十二人を以て最下位に在り。

一 教育機關 (昭和元年度)

醫學專門學校	一	三〇	三〇	五〇
學校數	一	三〇	三〇	五〇
教員數	三〇	三〇	三〇	三〇
生徒又は児童數	三〇	三〇	三〇	三〇
教員一人に付生徒(児童)	三〇	三〇	三〇	三〇

高等農林學校	1	1	1	1	1	1	1
高等商業學校	1	1	1	1	1	1	1
商業專門學校	1	1	1	1	1	1	1
高等學校	1	1	1	1	1	1	1
師範學校	1	1	1	1	1	1	1
中學校	1	1	1	1	1	1	1
高等女學校	1	1	1	1	1	1	1
農林學校	1	1	1	1	1	1	1
工業學校	1	1	1	1	1	1	1
商業學校	1	1	1	1	1	1	1
小學校	1	1	1	1	1	1	1
公立各種學校	1	1	1	1	1	1	1
實業補習學校	1	1	1	1	1	1	1
公立各種學校	1	1	1	1	1	1	1
非房	1	1	1	1	1	1	1

學校(小、公學校は分教場を含む)は年度末現在、教員、生徒(児童)は三月一日現在
なり。教員には兼務者を含む。

二 内地其の他との初等教育比較

小學校	校數	教員數	児童數	一校平均児童數	教員一人に付児童數	人口千に付児童數
臺灣	13	1,813	25,457	14.04	3.35	13.3
朝鮮	12	1,813	25,457	14.04	3.35	13.3
關東	12	1,813	25,457	14.04	3.35	13.3
北海道	12	1,813	25,457	14.04	3.35	13.3
内地府縣	12	1,813	25,457	14.04	3.35	13.3
公學校	12	1,813	25,457	14.04	3.35	13.3
臺灣	12	1,813	25,457	14.04	3.35	13.3
朝鮮	12	1,813	25,457	14.04	3.35	13.3
關東	12	1,813	25,457	14.04	3.35	13.3
北海道	12	1,813	25,457	14.04	3.35	13.3
内地府縣	12	1,813	25,457	14.04	3.35	13.3
公學校	12	1,813	25,457	14.04	3.35	13.3

公學校の朝鮮は官公立普通學校、樺太は土人教育所、關東州(州内)は官立公學校及公立普通學校の事實なり。
人口千に付児童數の基礎は、小學校に在りては内地人のみを、公學校に在りては各其の本土人のみを以て算出す。

臺灣の児童は昭和二年三月一日現在なり。
朝鮮は昭和元年度末(児童は昭和二年三月一日)現在にして同府統計書に依る。
樺太は昭和元年度末現在にして同廳統計書に依る。
關東州(州内、鐵道附屬地、領事館)は昭和元年末現在にして同廳統計書に依る。
北海道、内地府縣は大正十三年度末(児童は大正十四年三月一日)現在にして帝國統計年鑑に依る。

四四 衛生機關

臺灣には昭和元年末現在、官立十三、公立十六、私立七十三、計百二の醫院を、一千九百九十九名の醫師を、四百八十六名の衛生士、一千九十四名の産婆を有す。醫師、衛生一人に對する人口は全島平均二千七百六十一人にして、その割合の最も少きは新竹州の二千三百五十一人、最も多きは澎湖廳の五千八百八十一人なり。

總數	醫院		醫師及衛生		產婆	醫師衛生 一人に對 する人口
	官立	公立	醫師	衛生		
澎湖廳	—	—	—	—	—	五〇八一
花蓮港廳	—	—	—	—	—	二七五三
台東廳	—	—	—	—	—	二九三〇
高雄州	—	—	—	—	—	二八〇〇
台南州	—	—	—	—	—	二九三〇
嘉義州	—	—	—	—	—	二八〇〇
新竹州	—	—	—	—	—	二二〇〇
臺北州	—	—	—	—	—	二九三〇
總數	—	—	—	—	—	—

醫師及衛生
產婆

澎湖廳 醫師 衛生 產婆
 花蓮港廳 醫師 衛生 產婆
 台東廳 醫師 衛生 產婆
 高雄州 醫師 衛生 產婆
 台南州 醫師 衛生 產婆
 嘉義州 醫師 衛生 產婆
 新竹州 醫師 衛生 產婆
 臺北州 醫師 衛生 產婆
 總數 醫師 衛生 產婆

衛生士は明治三十四年府令第四十七號臺灣衛生免許規則に依り免許を得て其の管轄内に於て醫師を兼て爲す者あり。

本表の外薬剤師九十名、歯科醫師百一名を有す。

四五 水道

露澤に於ける既設水道(簡易水道を含む)の總數はパロン、恒春、馬太藪、カムテン等の給水戸數及消費水量不明のものを除き、昭和元年度末に四十二箇所、年度末現在給水戸數は専用給戸數二萬八千七百七十七戸、共用給戸數二萬五千四百四十三戸にして其の消費水量は消費水抵不明の八水道を除き計供給予三百四十二萬七千八百八十一立方米、放任供給千四百二十六萬三千二百六十六立方米なり。

年度末現在

年度中消費水量(立方米)

名 稱	給水開始年月	年度末現在		年度中消費水量(立方米)	
		専用給戸數	共用給戸數	總數	計量供給
盛 州	明治三二年三月	四四	九四	八九三三	九三三
淡 水	同 三五年五月	三六	二六	二六三三〇	二六三三〇
基 隆	同 四二年七月	三三	九一	七五三三	七五三三
臺 北	同 四三年七月	三三	三三	七五三三	七五三三
金 山	同 四三年七月	二六	三三	三三三三	三三三三
士 林	同 四四年五月	一六	四五	一六三三	一六三三
北 林	同 四四年六月	一六	三三	一六三三	一六三三
三 星	同 四四年三月	一六	三三	一六三三	一六三三
三 林	同 四四年三月	一六	三三	一六三三	一六三三
南 方	同 一四年二月	一六	三三	一六三三	一六三三
總 計		三三	三三	三三三三	三三三三

新開園	北絲園	橫樹園	里本	知家	呂里	太麻	新南	卑南	臺東	同山	同山	同東	高州	斗南	新化
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一四年	一四年	一四年	一三年	一二年	一二年	一二年	一二年	一二年	一五年	一四年	一五年	一五年	一五年	一五年	一一年
九月	九月	七月	四月	二月	八月	八月	一〇月	一〇月	九月	一〇月	一〇月	四月	四月	四月	四月
九	九	一	六	一	一	一	七	七	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
八七〇	七八五	二六〇	七九〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

嘉南	斗南	內埔	田中	員林	潭子	二水	埔里	豐原	臺中	彰化	新大	新竹
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一三年	一三年	一五年	一五年	一四年	一三年	一三年	一二年	一〇年	一五年	一五年	一五年	一五年
四月	三月	一月	五月	一〇月	四月	六月	九月	五月	六月	四月	四月	四月
二	二	一	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

都 都	同 一五年	二月	三	六	三〇七
花 港	同 一五年	七月	〇	三	三〇〇
玉 里	大正 五年	二月	〇	二	一
花 港	同 一一年	一月	五	四	三
本表の外パロン、恒春、馬太鞍、カムテン等の水道あるも戸数及消費水量不明なり。					

四六 ベストとマラリア

臺灣は一般に不健康地の如く解せらるゝも、衛生設備の完成と共に、近年其の面目を一新し、ベストの如き大正七年以來全く之れが發生を見ず。又マラリアの如きも其の死亡数は年に依りて増減ありき雖、一般に減退の傾向を示し、明治三十九年に於て人口千に付死亡数三人二分一厘なりしものが、昭和元年には一人三分九厘に減退し、其の實數に於ても同年間に四割五分を減したり。

明治三十九年	ベスト	マラリア	人口千に付死亡
同 四十年	二四六	一〇七	〇七
同 四十一年	二七三	一一三	〇九
同 四十二年	一〇九	一一三	〇九
同 四十三年	八四	一〇七	〇七
同 四十四年	三三	一〇七	〇七
同 四十五年	二二	一〇七	〇七
大正元年	一七	一〇七	〇七
同 二年	二二	一〇七	〇七
同 三年	二二	一〇七	〇七
同 四年	二二	一〇七	〇七
同 五年	二二	一〇七	〇七
同 六年	二二	一〇七	〇七
同 七年	二二	一〇七	〇七
同 八年	二二	一〇七	〇七
同 九年	二二	一〇七	〇七
同 十年	二二	一〇七	〇七
同 十一年	二二	一〇七	〇七
同 十二年	二二	一〇七	〇七
同 十三年	二二	一〇七	〇七
同 十四年	二二	一〇七	〇七
同 十五年	二二	一〇七	〇七
同 十六年	二二	一〇七	〇七
同 十七年	二二	一〇七	〇七
同 十八年	二二	一〇七	〇七
同 十九年	二二	一〇七	〇七
同 二十年	二二	一〇七	〇七

大正	元	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一年
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六
公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六
公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六
公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六	公三三六

薩摩總督府は阿片問題に就ては、嚴禁主義を避けて漸禁の方針を執り、阿片癮者と思はるる者に限り其の吸食を特許し、漸次之を絶滅を期し、逐年豫期の目的の到達に近つきつゝあり。即ち之を最近十五年間にと就て觀るに、阿片吸食特許者(本島人の數は八萬七千三百七十一人より三萬一千四百三十四人に減少したり)。

四七 阿片吸食特許者

總數

男

女

指數

總數

男

女

本島人百以上の特許年齢以上の

昭	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
利	十	十	十	十	十	九	八	七	六	五
元	十	十	十	十	十	九	八	七	六	五
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
四	三	二	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
五	六	七	八	九	〇	一	二	三	四	五
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	〇
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	〇
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	〇

同十二年	元四三	三六五	五九八	三三	五九	〇六
同十三年	三六五	三九一	五二六	三三	五九	〇六
同十四年	三九一	四〇〇	四七五	三三	五九	〇六
昭和元年	三九一	四〇〇	四七五	三三	五九	〇六

本表は各年十二月末日現在にして本島人のみの事實なり。

四八 鐵道

臺灣の鐵道は、昭和元年度末には官股鐵道(阿里山及羅東森林鐵道を含む)の營業哩數六百十哩に達し、外に私股鐵道千三百五十哩を有す。私股鐵道は主として製糖會社の經營する所にして内、營業線は三百二十七哩なり。

今之を内地其の他と比較するに、百方に付鐵道營業線の哩數は、關東州の二百八十六哩七分最も多く、我臺灣の七十五哩四分に亞き、樺太の六哩六分最も少し。更に人口萬に付哩數は樺太の七哩六分最も多く、朝鮮は一哩にして最も少く、臺灣は二哩三分を以て内地の上に在り。

營業線延長(哩)

總數	官股	私股	に百方に付	に人口萬に付
六九六	六二二	三七四	七五	二二
一八五	一四一	四四	一三	一〇
一五五	一五	一四〇	六	六
六二	一	六一	二	一
一〇八四	七八七	三〇七	四〇	一八

朝鮮、樺太、關東州は昭和元年度末現在にして同統計に依る。
内地道府縣は大正十四年度末現在の營業線にして帝國統計年鑑に依る。

四九 郵便、電信、電話

臺灣に於ける郵便、電信、電話の現況を觀るに、昭和元年度に於て通常郵便は引受五千二百萬、配達六千四百萬、電信は發信百三十萬、着信百四十萬、爲替は振出二千五百萬圓、拂渡千五百萬圓、貯金は預入一千六十萬圓、拂戻一千五十萬圓、貯金現在九百萬圓、振替貯金口座受入七千九百萬圓、拂出七千八百萬圓、現在七十萬圓なり。又同年度末現在電話加入者數は一萬一千四百八、年度中加入者發信通話數は五千二百萬なり。今之を内地其の他と比較するに、人口十に對する割合は通常郵便引受、電報發信、爲替振出及貯金預入を通して最多數を示すは樺太にして、其の最少數は通常郵便引受、電報發信及爲替振出の三は朝鮮、貯金預入は臺灣なり。又人口十に付電話加入者數の最も多きは樺太、最も少きは朝鮮にして、同加入者一に付通話數の最も多きは關東州、最も少きは樺太なり。

一 郵便、電信、爲替、貯金及電話

通常郵便 五三〇九四號
 引人口十に對する 六四二五九四〇
 受 三五四

電 話	加 入 者 入 口 千 人	年 度 未 入 加 入 者 入 口 千 人	現 在 在 付	現 在 在 付	貯 金		為 替		電 信	
					預 入 入 口 十 に 對 す	現 拂 入 入 口 十 に 對 す	振 入 入 口 十 に 對 す	振 出 入 口 十 に 對 す	發 信 入 口 十 に 對 す	著 信 入 口 十 に 對 す
五三六九五	三二	二四八	六八三三三〇	七〇九三〇	九二四二〇	二〇六〇〇	二五八〇〇	一〇八〇〇	二四七〇〇	一〇七〇〇
			六八三三三〇	七〇九三〇	九二四二〇	二〇六〇〇	二五八〇〇	一〇八〇〇	二四七〇〇	一〇七〇〇

二 内地其他との比較 (昭和元年度)

内 地	通 常 郵 便 引 受	電 報 發 信	電 報 振 出	貯 金 預 入	電 話	
					加入者一に對する	加入者一に對する
朝鮮	二五〇	三三	六九	三六六	二七	四〇八
關東	二八	二八	三九	二七	二七	四〇八
樺太	二八	二八	三九	二七	二七	四〇八
奉天	二八	二八	三九	二七	二七	四〇八
遼寧	二八	二八	三九	二七	二七	四〇八
東省	二八	二八	三九	二七	二七	四〇八
海東	二八	二八	三九	二七	二七	四〇八
内地府縣	二八	二八	三九	二七	二七	四〇八
朝鮮、樺太、關東州(州内、鐵道附屬地)は同統計亦に依る。						
北海道及内地府縣の爲替振出には外國爲替を含ます。						
北海道、内地府縣の爲替振出、貯金預入は大正十三年度、電話は大正十四年度の事實にして帝國統計年鑑に依る。						

五〇 警察官署及職員

鹿嶋の地方警察機關數は昭和元年末現在に依れば、州警務部五、廳警務課三、警察署六、郡警察課四十五、支廳九、派出所及駐在所千五百四十四にして、同職員の數は警視十五人、警部及警部補四百九十人、巡查六千九百三人なり。

今之を内地其の他と比較するに、一方里に對する巡查の數は、關東州の九人三分最も多く、鹿嶋は三人を以て之に亞き、巡查一人に付人口は北海道の千二百九十六人第一位を占め、内地府縣の千百十二人之に亞き、我鹿嶋は六百十四人を以て僅かに關東州の上に在り。

警察署 分署	派出所及駐在所	職 員		一方里 に付 巡查 人口
		警視 警部及 警部補	巡 査	
鹿嶋	1	15	1,380	64
朝鮮	1	15	1,000	33
朝鮮	1	15	1,000	33
大州	1	15	1,000	33
關東	1	15	1,000	33
北關	1	15	1,000	33
東海	1	15	1,000	33
北地	1	15	1,000	33
内府	1	15	1,000	33
縣	1	15	1,000	33

本表は昭和元年末現在なり。
本表は昭和元年末現在なり。
本表は昭和元年末現在なり。

薩摩の警察署には郡役所警察隊及支廳を含む。
關東州の民政支署は警察分署として掲出す。
朝鮮、樺太、關東州(州内、鐵道附屬地、領事館)は同廳統計書に依る。
北海道、内地府縣は帝國統計年鑑に依る。

五一 最近十五年間の進歩

人	總		内地		本島		蕃地		外		總	
	口數	人口	人口	人口	人口	人口	人口	人口	人口	人口	人口	人口
大正元年	3,451,760	2,377,222	2,377,222	1,957,496	3,333,333	1,797,777	833,333	179,777	723,666	3,333,333	2,377,222	?
昭和元年	4,277,777	2,957,496	2,957,496	2,457,496	3,333,333	1,797,777	833,333	179,777	723,666	3,333,333	2,377,222	?

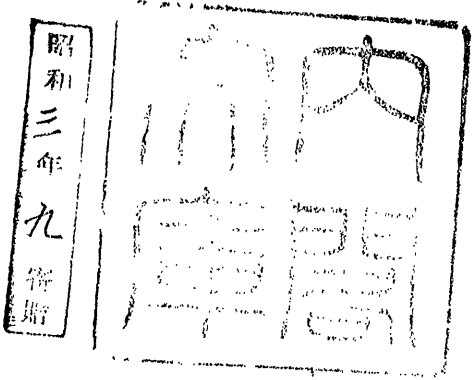
農	畜	林	耕		總	
			田	地	人口	人口
大正元年	723,666	3,333,333	3,333,333	1,797,777	3,333,333	2,377,222
昭和元年	823,666	3,333,333	3,333,333	1,797,777	3,333,333	2,377,222

大正元年を百として指數

阿片賣渡價額	六〇七六八圓	四七六六六圓	六
食鹽賣渡價額	七四九三二圓	二七六六六圓	元
榨油及樟腦油賣渡價額	五七七五〇圓	?	元
煙草賣渡價額	四三三六三圓	一〇〇〇〇圓	?
酒賣渡價額	一四〇一四圓	一四〇一四圓	三〇
教育			
小學校兒童	八六〇	二五六	六
公學校兒童	四九四	三六〇	六
中等學校生徒	一〇〇	八二	六
實業學校生徒	一〇〇	一〇〇	六
師範學校生徒	一〇〇	一〇〇	六
專門學校生徒	一〇〇	一〇〇	六
鐵道			
官設鐵道線路延長	三三哩	三三哩	三
運輸乘客貨金	三三三九四圓	七五九二四圓	三
收入貨物貨金	三三三九四圓	九八〇二八圓	三

總額	一七〇九二二圓	三〇九〇四七圓	三〇
專歲	增一八五五圓	九二九〇九六圓	九
歲歲	六〇五五六八圓	三二七八〇〇圓	三
財			
內地貿易	九二五七四圓	三三三三三三圓	三
外國貿易	三三三三三三圓	二二二二二二圓	二
總貿易	一二五〇〇八圓	五五五五五五圓	五
製糖	二〇九元九七九斤	六五三三〇九斤	元
甘蔗收穫面積	五三三九一五畝	三三三三三三畝	三
工業			
水產	四四三三三三圓	一七三三三三圓	七
礦產	三三三三三三圓	三三三三三三圓	三

私設鐵道線路延長	八〇哩	一五〇哩	一七
郵便、電信及電話			
通常郵便引受通數	三〇五,三三三	三〇六,九四八	一七
電報發信通數	九〇,三三三	一七〇,三三三	一七
爲替振出金額	一四,九七〇,〇〇〇圓	三〇,七元八三圓	一五
貯金預入金類	三二,六三三,〇〇〇圓	一〇,六四三,二八〇圓	三三
年度末現在	三,七九	一,〇〇八	三三
電話加入者	一七,三〇三	三三,六九三	三〇
電話通話度數			元石



昭和三年六月廿八日印刷
昭和三年六月三十日發行

臺灣總督府

臺北市榮町二丁目四番地

印刷者 江里口利三郎

臺北市榮町二丁目十二番地

印刷所 江里口印刷工場